唐津街道姪浜まちづくり協議会での活動

4 姪浜への関わり

(1) 最大のきっかけは福岡県西方沖地震

このようにして 28 歳で福岡市役所に入って 30 年以上が過ぎた。月日の経つのは早いものだ。いろいろな仕事を経験させていただいたが、姪浜のまちづくりに特に関係する仕事は、通算 10 年に及ぶ都市景観の仕事のうち、御供所のまちづくりであろうか。ただ、御供所を担当している時には、住まいのすぐ近くの姪浜にはほとんど関心がなかった。

姪浜周辺に住み始めて 30 年近くになるが、姪浜で印象に残るのは、その頃に始まった姪友会の 花火大会、鮮魚店が多いこと、そして西福岡マリナタウンに延びる道路の幅員が現在の 1/3 程度 であったことぐらいで、歴史があり、寺社や町家が多いまちというイメージはほとんどなかった。 姪浜住吉神社の河童祭りや夏越祭りに行った記憶もない。炭鉱町であったことも知らなかった。 玉せせりも筥崎宮のイメージしかなく、姪浜住吉神社で行われていると知ったのは、姪浜の活動 に関わってからである。魚の美味しいお店も「たつき」や「鰤っ子」に行った記憶しかない。当 時は家庭や子育て、仕事に精一杯で、地域のことにはあまり関心がなかったのかも知れない。

そんな筆者が姪浜に関心を持つようになった最大のきっかけは、平成 17 年 3 月 20 日の福岡県西方沖地震である。玄界島の被害の状況が大きくクローズアップされたが、姪浜住吉神社の鳥居・門が倒壊した様子も新聞やテレビで報道された。心を痛めると同時に、「姪浜にはまだこんなに歴史的建造物が残っているのか」と前向きに考えた。これがきっかけで、都市景観室時代に見落としていた身近な姪浜のまちづくりに取り組むことになった。

コラム4 震度6弱からの転機

平成 17 年 3 月の福岡県西方沖地震、それが私の人生の大きな転機となった。姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けた。「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史資源が残っていたのか。まだ、遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域の関係者に声をかけ、2 年後にまちづくり協議会を立ち上げた。私が 49 歳の時だ。

それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がなかった。それからは今までの 20 年間を取り戻すかのように、『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただいた。

今はやりの二刀流ではないが、公務員 そして地域のまちづくりのリーダーとして、引き続き「私の人生は二刀流、二毛 作」をテーマに息長く、そして仲間とと もに楽しくまちづくり活動に関わってい きたい。

(平成 25 年 8 月。ある企業の募集に応募したフォト&エッセイより)



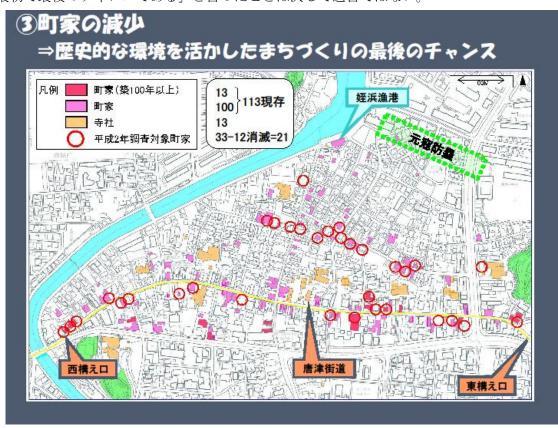




福岡県西方沖地震による姪浜での被害例: 姪浜住吉神社(左)、伝統的町家建築(右)

(2) 姪浜をどこにでもあるようなまちにしたくない

もう一つのきっかけは、姪浜の個性のひとつである伝統的町家建築の減少である。平成2年に福岡市教育委員会が調査した33軒のうち、平成19年3月の調査では12軒が無くなっていた。この中には、福岡県西方沖地震で被害を受けたことが原因で解体されたものもあるし、家や店の後継者がいなくなり売却され、マンションや駐車場になっていったものもある。特に唐津街道沿道は商業地域であり、高いマンションが建つ可能性が高い。人口が増えている地域であり、こうした動きは自然の流れではあるが、その流れに任せてしまうと、どこにでもあるような個性のない普通のまちになってしまう。筆者が「歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスである」と言ったことは決して過言ではない。



姪浜の町家分布状況(平成19年3月調査)

また、都市化の進展に伴うマンション化や駐車場化、景観形成への配慮に欠けた建築物の増加は、町並みの個性の喪失につながりつつあった。全国どこに行っても同じような街並みの形成が進む中で、筆者には「姪浜を普通のまちにしたくない」という強い想いがあった。「地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こしていくことが、姪浜ならではの地域特性を活かしたまちづくり・景観づくりの土台となる」という考え方は、筆者の姪浜でのまちづくりの哲学である。これは一歩も譲ることはできない。

姪浜の魅力資源は、多彩な歴史、伝説・物語、数多くの寺社や町家、狭い路地、海、港、魚市場、美味しい魚など数え上げるときりがない。地域の人が見慣れて、当たり前だと見過ごしているものにスポットを当てていくことが、姪浜ならではのまちづくりを進める第一歩なのである。





景観形成への配慮が望まれる高層マンション



筆者の姪浜でのまちづくりの哲学

(3) まちづくり協議会発足

福岡県西方沖地震がきっかけと言いながら、筆者がすぐに姪浜で活動を始めた訳ではない。具体的な活動は、筆者が平成 18 年 4 月に再度、都市景観室に配属された時に、福岡市の職員を中心とした研究グループ「博多津にぎわい復興計画研究会」に入った時からである。このグループでは、歴史的建造物や町並みの保存・再生をテーマに定期的に講演会やまち歩きなどを実施してきており、入会前から筆者も時々参加していた。後述する版画家の二川秀臣氏との出会いも、このグループが平成 18 年 6 月に主催した箱崎でのまち歩きだった。

唐津街道姪浜まちづくり協議会の立ち上げは、そのグループの活動の一環で平成19年3月17日に姪浜でまち歩きを実施した後に協議・決定され、3月26日に「唐津街道姪浜町並み・まちづくり活性化協議会」として設立された。その時は、西区役所が実施していた「西区やる気応援事業」の支援を受けるための受け皿として設立されたものであり、地元のメンバーの参加はそれ以降となる。

なお、筆者らが作成した当時の設立趣意書は次のとおりである。自分ながら格調の高い趣意書だと思う。現会員や地域の皆さま方には、ぜひ設立時の筆者らの気持ちを思い起こしてほしい。

まちづくり協議会設立のきっかけとなった 姪浜でのまち歩き(平成19年3月17日)



唐津街道姪浜 町並み・まちづくり活性化協議会設立趣意書

唐津街道沿いの旧姪浜宿周辺地域には、中世、近世を中心とした歴史と文化が息づき、福岡市内でも有数の歴史的環境が形成されています。江戸時代初期には現在の唐津街道がつくられ、それに沿って伝統的な町家町並みが形成されました。都市化の進展とともに伝統的な町家は少なくなっていますが、興徳寺や姪浜住吉神社等の数多くの寺社と一体となって、現在も往時を偲ばせる文化的景観が継承されています。

しかし、その良さが地域内外にほとんど認識されておらず、まちづくりや地域活性化にほとんど活用されていないのが現状です。このままでは、地域固有の文化的景観が失われ、全国どこにでもある特徴のないまちになってしまうことが予想されます。

一方、4月に創刊予定の「ミシュラン日本ガイド」でも、伝統的町並みを有する都市が高く 評価されるなど、地域固有の美しい町並みを活かした取り組みが強く望まれています。

このような状況のなかで私たちは、地域内外に唐津街道姪浜の魅力を発信し、多くの人が訪れる元気なまちになってほしいと願っています。伝統的な町家が次第に失われつつあるなか、 唐津街道姪浜の文化的景観を活かしたまちづくりを進める最後のチャンスだと考えています。

このため、私たちは、地域住民や唐津街道姪浜に興味を持つ市民と協働で、地域の宝物(文化的景観資源)を調査し、多くの人々にその魅力を再認識してもらい、それを福岡市民共有の財産として活用することにより、唐津街道姪浜固有のまちづくりと地域活性化を進めていくため、「唐津街道姪浜町並み・まちづくり活性化協議会」を設立するものであります。

(平成19年3月26日)

5 筆者が考える姪浜の魅力

(1) 長く住んでいると見失いがちな地域の魅力

筆者らが活動を始める前は、姪浜で地域資源を活かしたまちづくり活動を自主的に行っていた 団体はおそらくなかったであろう。自治協議会、商店会、姪友会などが既に活動していたが、活 動の目的や内容が限定的であり、地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりを進める視点は持ち 合わせていなかったようである。地域住民の多くは、「姪浜には他の地域に誇れるものは何もない」 と考えていたようであり、まちづくりの機運がなかったのも当然のことであろう。

長い間、同じ地域にいると、自分の住む地域の良さを見失いがちである。これは、どこの地域にも当てはまることで、姪浜に限ったことではない。まちづくり協議会の役員でさえ、後に国の登録有形文化財となるマイヅル味噌の建物についても、筆者から言われるまでは「見慣れた建物であり、こんな古い家のどこがいいのか」と言っていたほどである。よそ者の視点がまちづくりに求められるのは、こういうところである。そういう筆者も姪浜周辺に住んでいながら、かつ、都市景観行政に長く関わっていながら、姪浜の良さがわかっていなかった。まちづくりに関わる人間にとっては、反省すべきことであり、この反省が筆者の10年間の精力的な活動につながっていくことになる。









筆者がまちづくり活動に関わり始めた頃の姪浜(平成20年1月)

(2) 10年前に筆者が直感した姪浜の魅力

筆者が姪浜をじっくりと歩いて見たのは、前述の研究グループ「博多津にぎわい復興計画研究会」が平成19年3月17日に実施したまち歩き及びその1週間前の事前調査の時である。光福寺周辺の路地で、春を告げる黄色のミモザが鮮やかに咲いていたことが強く印象に残っている。そ

の時の姪浜のイメージは、「町並みとしては連続していないが、伝統的な町家建築が点在している」「寺社が多い」「狭い路地が多い」「姪浜石がよく使われている」「地域コミュニティが継承されている」ことなどである。御供所が寺町のイメージが強いのに対し、姪浜は普段着のまちであり、今後地域を調べていくといろいろな魅力が出てくるのではないかと感じた。その時の直感が、先程の協議会設立趣意書につながった。



印象に残るミモザ



地域コミュニティの継承を感じさせるお堂

(3)筆者が考える姪浜の魅力

都市化の進展に伴う高層マンション化、高齢化の進展に伴う空家や空き店舗の増加、紋切り型のワンルールアパートや駐車場の増加などにより、ややもすると通り過ごしてしまいそうな姪浜の町並みであるが、じっくりと歩いてみると、新旧の多彩な「よかとこ」を発見することができる。先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ多くのお寺や神社、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津海道の町並み、港の風景などたくさんある。

姪浜の歴史

(古代)

- •神功皇后伝説
- ・大陸や南海諸島との交流(中国製、半島製、南海産の出土品) (平安時代)
- ・唐 房(南宋からの渡来人の居住地・・・・旧町名に「当方」) (鎌倉時代)
- •元寇、元寇防塁
- ・九州探題(現在の愛宕山あたり)

(江戸時代)

- ・唐津街道宿場町、廻船業、漁業、製塩業など
- (大正時代~昭和30年代)
- •早良炭鉱設立~閉山

(現 在)

・ベッドタウン、臨海部の大型商業施設(埋立地など)

姪浜の歴史概要

一方、姪浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンションなどは、姪浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景である。姪浜で実施された平成22年度の九州大学大学院の都市・建築ワークショップのテーマは「上書きされた都市・姪浜」であったが、良く練られたテーマであったと思う。

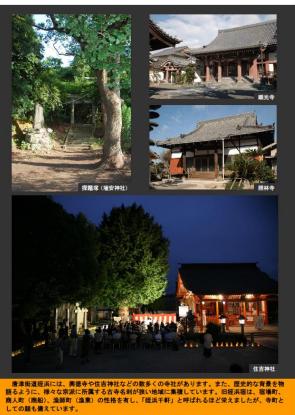
エリア的に見れば、区画整理や埋め立てによって様変わりした姪浜駅周辺や海浜部と、その間にポツンと取り残されたような旧唐津街道周辺、その新旧のコントラストが姪浜の魅力である。また、新旧の様々な魅力スポットを歩いて回ることができることも姪浜の大きな魅力である。特徴が見えにくくなりつつある現在の姪浜であるが、多彩な「よかとこ」を地域の方々に認識していただき、それをどのようにまちづくりに活用していくのか、まちづくり協議会に求められる役割は大きい。





姪浜の回遊ルート









姪浜の魅力資源の一部(筆者が平成20年9月に作成した資料から抜粋)

6 まちづくり協議会の活動概要

(1)活動概要

具体的な活動を振り返る前に、まずは全体の活動概要を示しておこう。一つひとつの活動はオーソドックスかも知れないが、それぞれのステージのまちづくりの熟度や課題に対応した活動を丁寧に実行してきた。地道ではあるが、これほど多彩な活動を実践してきた団体はおそらくないであろう。自分でもよくやってきたと自画自賛している。

◆ 1 st ステージ (主に平成 19 年度~21 年度)

『地域の魅力の再認識と地域内外への発信』を目標に、「まち歩きマップやかわら版の発行」「まちづくり活動拠点の設置」などによる姪浜の見どころ・活動の情報提供や、「景観歴史発掘ガイドツアー」「国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート」「歴史ある寺社での灯明コンサート」などの多彩な町並みイベントを実施してきた。

◆ 2 nd ステージ (主に平成 22 年度~25 年度)

『地域協働のまちづくり計画の策定及び景観まちづくりの実践』を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気! 姪浜計画」や「景観づくり計画」の策定を行うとともに、「町家再生の実践」「旧町名表示板の設置」「姪浜ブランドの認定」「姪浜町家の認定」などの具体的な活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えてきた。

また、「子どもまちなみ探検隊」や「子ども落書き消し隊」などの次の世代を担う子どもたちを対象にした景観づくり普及活動にも取り組んできた。

◆ 3 rd ステージ (主に平成 26 年度~27 年度)

『国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築』を目標に、「姪浜景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに、平成25年末に味噌の製造場としての約1世紀の役割を終えて閉店したマイヅル味噌のみそ蔵(姪浜の歴史的・景観的シンボル)の再生・継続的活用に向けた活動を展開してきた。

最近では、姪浜の次のまちづくりのステージ「姪浜ネクストの推進」に向けた活動や、多彩なよかとこを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」を展開中であった。

(2)活動内容一覧

段階	活動内容	活動開始年度
1	(1)定例会	H19 年度
	(2)地域の魅力資源調査	H19 年度
	(3)地域の魅力資源集の作成	H19 年度
s	(4)まち歩きマップの作成・発行	H19 年度
t	(5)まちづくり講演会・シンポジウム	H19 年度
ス	(6)登録文化財の登録への協力	H19 年度
テ	(7)景観歴史発掘ガイドツアー	H19 年度
ジ	(8)みそ蔵コンサート	H19 年度
	(9)版画展•町家展	H19 年度
	(10)先進都市調査	H20 年度
	(11)まちなみパネル展	H20 年度

1	(12)他団体との交流・連携活動	H20 年度
s	(13)マスコミへの情報発信	H20 年度
t	(14)町家再生の実践	H21 年度
ス	(15)灯明コンサート	H21 年度
テ	(16)旧町名表示板の設置	H21 年度
	(17)まちづくり活動拠点(まちの案内所)の開設・運営	H21 年度
ジ	(18)姪浜の食材を使った料理でのおもてなし	H21 年度
	(19)景観づくり地域団体の認定	H21 年度
	(20)全国区の補助金へのチャレンジ	H22 年度
	(21)地域との交流会	H22 年度
	(22) 九州大学との連携(都市・建築ワークショップ等)	H22 年度
	(23) 様々な場面での姪浜の PR	H22 年度
	(24) 視察受入&意見交換	H22 年度
	(25)かわら版の発行	H22 年度
	(26)まちづくり計画策定ワークショップ	H22 年度
	(27)「元気!姪浜計画」の策定	H22 年度
2	(28)女性部会「はまこみち」の発足・活動	H23 年度
n d ステージ	(29)「姪浜ブランド」の認定	H23 年度
	(30)「姪浜ブランド」の PR	H23 年度
	(31)景観づくり委員会	H23 年度
	(32)「景観づくり計画」の策定	H23 年度
	(33)「姪浜町家」の認定	H23 年度
_	(34)ディスカバー姪浜展を主体としたウィークリー事業	H24 年度
	(35)町家活用イベント(姪浜シネマ、町家コンサート)	H24 年度
	(36)着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き	H24 年度
	(37)まちなみネットワーク活動	H24 年度
	(38)地域のシンボルであるみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動	H25 年度
	(39)子どもたちを対象にした景観づくり普及活動	H25 年度
	(40)全国区の賞へのチャレンジ	H25 年度
	(41)地域からの贈り物	H25 年度
	(42)景観まちづくり宣言	H25 年度
3	(43)「景観づくりの手引き」の作成	H26 年度
r	(44)海を意識したプロジェクト(遊覧船等)	H26 年度
d	(45)「TEAM 姪浜ネクスト」の推進	H26 年度
ス	(46) win-win-win-win 方式によるまち歩きマップの作成・発行	H27 年度
テ	(47)ポストみそ蔵としての「まち旅プロジェクト計画」の策定	H27 年度
	(48)空き店舗を活用した新案内所の開設	H27 年度
ジ		

「参考資料 2 唐津街道姪浜まちづくり協議会と筆者の 10 年の歩み」

「参考資料 3 姪浜プロジェクト 48 (MPT48)

~筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に取り組んだ多彩な活動~」

7 1 st ステージの活動 (主に平成 19 年度~21 年度)

(1) 地域課題、まちづくりの目標

平成 19 年度に活動を開始した当時の課題は、「地域の方々が地域の歴史や魅力に気付いていない」ことであった。前にも述べたが、長く住んでいると、それが当たり前のこととなり、地域の魅力を見失いがちとなる。多くの地域で同じようなことが言われるが、姪浜も例外ではなかった。伝統的な町家にしても、当時は「こんな古い家のどこがいいのか」という感じであった。また、狭い路地も姪浜の魅力のひとつであるが、「こんなところを案内したくない」という具合であった。こうした状況の中で、筆者らは「姪浜の魅力をまずは地域の方々に知っていただき、誇りと愛着を持っていただきたい。そして、姪浜の魅力を地域内外に発信していきたい。」という目標を立てた。具体的な活動を紹介していこう。

1 st ステージの地域課題、活動目標

●地域課題:地域住民自身の地域の魅力の認識不足

●活動目標:地域の魅力の再認識と地域内外への発信

(2) 1 st ステージの最初の定例会

協議会が発足して初めての定例会は、平成 19年5月29日に姪浜公民館で開催された。この時はまだ福岡市職員が中心であり、地元の会員は数名であった。この時の定例会では、会員の自己紹介に引き続き、協議会設立趣意書や西区やる気応援事業の内容を説明した後、今後の活動などについて意見交換を行い、出席者がそれぞれ姪浜への想いを語り合った。

定例会後の懇親会は「たつき」で行われたが、昨日のように覚えている。平成 28 年 8 月の西日本新聞の記事によると、たつきの女将さんが最初の懇親会の様子を覚えていてくれたようだ。もう 10 年も前の事である。





最初の定例会

なお、この時に在籍していた多くの市職員も平成 23 年春までに退会し、最後まで残っていたのは筆者だけである。歴史や町並みに興味があるだけでは目標を持ち続けるのは難しく、また、業務の枠を超えて自分の住む地域以外で、まちづくり活動に参加するのは、何かメリットを感じられないと難しいということであろうか。

8 平成19年度の活動

(1) 地域の魅力資源調査、魅力資源集の作成、まち歩きマップの作成

最初の取り組みとして、4月から地域にどのような魅力資源があるのか、地域の特徴である寺社、町家、路地、塀、お堂、地蔵、石碑、緑などを調査した。協議会で実施したものもあるが、筆者が個人的に調査したものが圧倒的に多い。地域内をくまなく、そして何回も歩いた。歩く度に新しい発見もあり、また、同じ場所でも季節によって違った表情を見せてくれた。通りかかった地域の方々も声をかけてくれた。こうした地域の方々との出会いも調査の楽しみであった。





地域の魅力資源調査

こうした調査をもとに「地域の魅力資源集~唐津街道姪浜 見て歩き、食べ歩き~」を作成した。 当初版でも 30 ページ以上に及ぶもので、我ながら力作であった。古いパソコンを使っていた時代 で、動きが悪く、作成に苦労したのを思い出す。川岡会長はこの資源集を見て「一体だれが、い つ作ったのか」と驚かれていた。





別議(うだつ)は、無限の付いたっちを置く、門職機とと意識機の別に接り出すように設けられているものです。 主要の研究をなるとしている場合に、開発のもの文字が、操作は基準的を選出に要定が重かれるようになり、最分の対力をアピールするための 開催として製造的方を中心に関心の基準には至いて達って立刻で開催されたものですが、操作は基準的な選出には至いて語って立刻で開催されたものですが、操作は基準的な選出には至いて語って立刻で開催されたものですが、操作は基準的な関係として製造的方をやしたである。

地域の魅力資源集(概要版)

地域の魅力資源集(詳細版)

地域の魅力資源集は協議会主催の最初のまち歩きイベント(平成20年3月)で参加者に配布され、とても喜ばれた。しばらくは、まち歩きイベントの度に更新を続けた。また、概要版も作成し配布するとともに、A1サイズにパネル化し様々な場面で活用してきた。

地域の魅力資源調査の成果は、まち歩きマップにも活用された。他の地域のマップをいろいろ収集した後、平成 20 年 3 月に当初版のマップを作成した。A3 両面、二つ折りのシンプルなものであり、片面が姪浜の魅力の紹介、片面がまち歩きマップとなっている。漫画家の長谷川法世氏の姪浜の町家のイラストや、版画家の二川秀臣氏の版画もお借りした。第 3 版まで発行し(15,000 部配布)、姪浜の魅力を多くの市民に伝えてきた。新しいマップができても、片側のマップ面のデータを更新しながら使い続けており、筆者の住む愛宕浜のマンションの広報誌でも 2 回掲載された。



最初のまち歩きマップ

(2) キックオフイベント

協議会のキックオフイベントは、平成 19 年 9 月 29 日の姪浜住吉神社での「まちづくり講演会 &シンポジウム〜長谷川法世さんと姪浜の町家を語ろう〜」であった。これは、漫画家の長谷川法世氏の講演と、法世さんを含めたパネラーを含むシンポジウムである。平成 19 年は読売新聞で毎週土曜日に、法世さんが取材した福岡の町家が連載されており、タイムリーなテーマとして企画したものである。姪浜でも 15 軒の町家を取材されていた。いきなり「町家に暮らす〜伝統的な町家・町並みの良さを見直す〜」をテーマにするのはどうかという意見もあったが、その時のタイムリーな話題と人、雰囲気などを総合的に判断して決めていくのが事務局長である筆者の役割

であり、進め方である。

内容としては、法世さんが取材し描いた町家のイラストをスクリーンで紹介しながら、その時々のエピソードを話すもので、そのユニークな話しぶりに会場は大いに盛り上がった。その後のシンポジウムには、法世さんに加え、建築家の鮎川透氏、地元の町家所有者として早船正夫氏(郷土史家)と白水洋子氏(マイヅル味噌代表)にもパネラーとして参加していただいた。コーディネーターにはまちづくりの専門家でもあり、協議会会員(当時)でもある十時裕氏にお願いした。鮎川氏には専門家の視点、早船さんと白水さんには町家を維持していく上での苦労などを話していただいた。法世さん、鮎川さん、早船さんのお子さんは東大在学中または出身ということでも盛り上がった。十時さんの進行も手慣れたものであった。

こうした講演会やシンポジウムにおいては、パネラーの選定はもちろん、シナリオの作成、事前協議なども事務局長である筆者が主体的に行っており、その準備にかなりの時間も費やしていた。こうしたイベントは、当日は流れに沿って進行していくだけであり、イベントが始まる前に既に90%は終了しているものである。

また、演出にも気を使った。樹齢 700 年のイチョウをライトアップするとともに、周辺に灯明を配し、幻想的な雰囲気を演出した。オリジナルのステージも作った。手間暇とお金をかけても、そして天気の様子を気にしながらも場所にこだわる必要がある。公民館や市民センターではなく、姪浜の魅力を伝えられる場所で行うことに大きな意義があるのである。これも筆者のこだわりである。







まちづくり講演会&シンポジウム

当日は今にも雨の降りそうな天気であったが、筆者らの苦労を見てくれていたのであろうか、何とか持ちこたえてくれた。きっと姪浜住吉神社の神様のおかげであろうか、シンポジウムが終わり懇親会の開始と同時に大粒の雨が降り出したのであった。ちなみにその日の懇親会の会場は「旬や みなくち」であった。シンポジウムの話題と美味しい料理、お酒で懇親会が盛り上がったのは言うまでもない。キックオフイベントは大成功であった。

なお、法世さんが今回の内容を大変気に入られ、博多部の御供所でもぜひ実施したいという話があり、当時福岡市都市景観室に在籍していた筆者が全面的に対応することになり、平成 20 年 3 月 29 日に古刹・承天寺で開催した。パネラーは法世さんの他、御供所まちづくり協議会の瀧田喜代三さん、版画家の二川秀臣さん、石村萬盛堂の石村一枝さんで、コーディネーターは建築家の鮎川透さんという顔ぶれであった。こちらも大成功であった。

(3) 春の町並みイベント 2008

次の大きなイベントは、平成 20 年 3 月 15 日を中心に開催した「ガイドツアー&みそ蔵コンサート&版画で歩く唐津街道展」で、盛りだくさんの内容であった。イベントの開催にはいろいろな調整が必要であるが、同じ日にいろいろなイベントを重ねる時はより詳細な調整が必要となる。この時はまず、コンサートの演奏者の選定と日程の確保を行った。会員の福原さんの紹介により、チェロの于波(ウ・ハ)さん、ピアノの葉山由美さん、ヴァイオリンの佐久間大和さんに決定。もちろん、会場となるみそ蔵の日程も確保した。

版画家の二川秀臣氏には前年(平成 19 年)の秋に古賀市で開かれていた版画展の会場に二川さんを訪ね、姪浜でも版画展をお願いしたいと申し出、快諾を得ていた。版画展の会場についても、みそ蔵を軸に考えていたが、一週間単位となりマイヅル味噌の業務に支障を来すため、他の会場を検討。ホームページでオープンしたばかりのコトリスタジオ(マイヅル味噌の正面。cafebar PIPS の 2 階)の情報を偶然に入手し、オーナーの首藤さんに連絡。二川氏を含めて早速協議。段取りは順調に進んでいった。その後、ガイドツアーのコース設定を行い、案内する寺社やお店、町家などへの依頼を済ませた。市役所にいると、こうした段取りは慣れたものである。

このように様々な調整を済ませた上で、広報ちらしを作成し広報活動に入っていった。市政だよりや公民館だより、西区ホームページへの掲載依頼の他、主なマスコミにも記事掲載及び取材依頼を行った。地域内の公民館やお店にも広報ちらしを配布した。地域の一団体が広報活動をするのは結構大変である。申込みや問い合わせ先はすべて事務局長の筆者であり、申込みリストの作成や相手方への連絡など対応に時間を取られた。

次は当日までの準備である。コンサートではプログラム&プロフィールや会場の設営計画の作成、音響機器の手配などを行い、前日に設営を済ませた。版画展も設営計画、人員配置計画、搬入計画などについて二川さんと協議。前日に二川さんの自宅に版画を受け取りに行き、設営完了。大変だったのは、ガイドツアーの準備である。出来上がったばかりのまち歩きマップと地域の魅力資源集を透明のファイルに入れるという作業の他、名札やルート、タイムスケジュールも班ごとに作成した。初めてのガイドツアーということもあり、前日も自宅に戻って、夜遅くまで作業に追われた。

こうして、いよいよイベント当日を迎えた。ここまで来れば、イベントはほぼ終了。後はお客さんを迎え入れるだけである。当日は天気にも恵まれ、ガイドツアーには地域内外から多くの方々

に参加していただいた。姪浜住吉神社からスタートし、寺社、町家、路地、お薦めのお店、版画展の会場を案内。3月15日ということで桜はまだ咲いていなかったが、黄色のミモザや白色のユキヤナギがガイドツアーに彩りを添えた。マイヅル味噌ではみそ汁を振る舞っていただいた。姪浜名物の魚嘉の蒲鉾や仲西商店の削り節の試食は、この時のガイドツアーから既に始まっていたと思う。2時間程度のコースであったが、参加した方々に大変喜んでいただいた。









ガイドツアー

また、みそ蔵コンサートは、マイヅル味噌の建物が平成 19 年 12 月に国の登録有形文化財に登録されたことを地域内外に広く伝えるとともに、幻想的な雰囲気の中での演奏を楽しんでいただきたいという趣旨で企画したものである。味噌の香りのする空間でのコンサートは珍しいということで、多くの方々に参加していただいた。チェロの于波さん、ピアノの葉山由美さん、ヴァイオリンの佐久間大和さんには、楽しいトークを交えながら「白鳥」や「リベルタンゴ」などを演奏していただいた。

途中、電源が切れるハプニングもあったが、演奏者は何もなかったかのように演奏。これも手作りコンサートならではのことである。版画家の二川さんも版画展の会場から駆けつけ、その様子を絵に描いてくれた。マイヅル味噌の白水さんと筆者へのプレゼントだった。

みそ蔵コンサートは、その後協議会のオリジナルイベントとして定着していくことになった。 コンサート後の打ち上げは、オープンしたばかりの「あこめの浜」で行った。名物のとん平焼き やお好み焼きに舌鼓を打ちながら、美味しいビールやお酒で盛り上がった。コンサートに来てい ただいた方々も多く来店されており、「いいコンサートだったよ」と口々に声をかけてくれた。



みそ蔵コンサート

「版画で歩く唐津街道展」は一週間の開催であった。この展示会に会わせ、二川秀臣さんにはマイヅル味噌、姪浜住吉神社、興徳寺、旦過だるま堂の版画を新たに作成していただいた(石橋啓延邸は既に作成済)。二川さんは旧街道沿いの歴史的建造物が年々失われつつあることに危機感を覚え、版画でその姿を残しておきたいという想いから長崎街道や唐津街道を中心に多くの作品を作られ、いろいろな地域で展示会を開催されている。勤めていた会社を定年で辞めてから、本格的に版画を彫られているが、その情熱には頭が下がる想いである。現在は80歳半ばであるが、元気に活躍されている。久し振りにお会いして、筆者のまちづくり協議会卒業やマイヅル味噌のみそ蔵の報告を兼ねて、ゆっくりと話をしてみたい。





版画で歩く唐津街道展

9 平成20年度の活動

(1) トークショー

平成 20 年度から実施したのは、歴史的建造物でのトークショー(まちづくり講演会)である。 前にも書いたが、こうした事業は公民館や市民センターではなく、寺社、みそ蔵、町家、cafebar PIPS (旧郵便局舎) などで行い、歴史的建造物の魅力を伝えていくことに意義がある。これも筆 者のこだわりである。

平成 20 年度は、cafebar PIPS で 2 回の講演会を「唐津街道姪浜塾」として実施した。20~30 名の講演会にはちょうどいい規模の会場であり、雰囲気も良く、リラックスして会話ができる。講師は、第 1 回目が地域デザイナーの高山美佳氏、第 2 回目が西日本文化編集長の深野治氏であった。高山さんには『地域の魅力を伝える、活かす~「風景」「物語」「食」と地域活性化~』について、深野さんには『唐津街道と姪浜』についてお話しいただいた。トークショーの相手はお馴染みの十時裕氏。講師や会場との掛け合いも上手い。講演会終了後には、同会場で懇親会。講演会の話題も踏まえ、楽しいひとときを過ごした。ちなみに PIPS は現在ワインバーとして使われているが、サロン的な会場としてはもってこいの場所であると思う。いろいろな使われ方を期待したい。





トークショー

(2) 先進都市調査

平成 20 年度から先進都市調査を始めた。最初の視察は、八女市横町、山鹿市豊前街道、熊本市古町、黒川温泉、田主丸町、吉井町などであった。メンバーは、協議会から筆者を含めて5名、市役所から2名、合計7名であった。いずれも町並みなどの地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりを推進している地域であり、会員に実際に見て感じてほしいと企画したものである。姪浜とは置かれている状況は異なるが、他の都市を参考にしながら「姪浜の魅力資源をどのように活用していくのか」についてしっかり考えていくことが、今もこれからも求められている。先進都市調査は、そのための絶好の機会なのである。

また、こうした企画は、宿泊する場所や食にもこだわる必要がある。宿泊は、筆者が以前から使わせていただいている南小国町の農家の宿「さこんうえの蛙」であり、オーナー手作りの野菜を使った料理が大変美味しい。静かな環境も福岡にはないものだ。セミやカエルの声が静かな山里に響いていた。建物も農家の納屋をリフォームしたもので、こういう場所に泊まることにも意義がある。同行したメンバーの中には、「肉や魚はないのですか」と言っている人もいたが、その

地域や場所でしか体験できないことを体感し、考えることが、次の地域づくりにつながるのである。これも筆者のこだわりである。





先進都市調査:八女福島(左)、山鹿(右)

(3) まちなみパネル展

平成 20 年度からまちなみパネル展も始めた。これは、地域資源集の概要版を A1 サイズに印刷・パネル化し展示するもので、当初は 16 枚のパネルを作成した。実は、このパネルの写真撮影のために夏の暑い時期に何度も足を運んだ。休日だけでなく、出勤途中にバスを下車して写真を撮ったこともある。それまで写真はたくさん撮っていたが、パネルに拡大する以上はどうしても人のいる町並みを撮りたかったからである。こうしたこだわりも大切である。

さて、このパネルの最初の出番は、10月の「西区まるごと博物館 IN 小戸ョットハーバー」であった。大きさと枚数、統一されたデザインに他の展示関係者も驚かれていた。来場者の評判も上々だったと思う。このパネルは、毎年秋の「西区まるごと博物館」での展示だけでなく、みそ蔵でのイベントなどの際にも何度も使われ、姪浜の魅力紹介ツールとしての役割を果たしてきた。ただ、作成から既に9年が経過しパネルも陳腐化しており、そろそろ見直しが必要だろう。





まちなみパネル展

(4) 秋の町並みイベント 2008

秋の町並みイベントとして、11月1日に「町並みウォッチング&みそ蔵講演会、みそ蔵コンサート」を実施した。町並みウォッチング&みそ蔵講演会は、まち歩きの専門家である鹿児島の東川隆太郎さん(NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事)とまちを歩き、

東川さんのユニークな視点で姪浜のまちを語っていただいたものである。

町並みウォッチングでは「寺社巡りコース」「町家町並み巡りコース」「お薦めのお店巡りコース」「おもしろ路地巡りコース」の4班に分かれ、まちを散策。まち歩きイベントは、いろいろ試行を繰り返している時期であり、この時はテーマ型で実施した。東川さんには、おもしろ路地巡りコースに入っていただいた。東川さんの視点は面白く、参加者からは笑いや感嘆、驚きの声が上がった。和洋折衷の床屋(理髪店)や、卯建(うだつ)のある家を面白がっていたように思う。

2時間ほど歩いて東川さんの講演会。テーマは「まちかどの宝探し~素敵なものはまちに転がっている・姪浜編~」であった。姪浜のまちを歩いた印象や気になったことを話していただいた。また、東川さんがテーマとしている「世間遺産」もたくさん紹介していただき、会場も大変盛り上がった。冒頭の自己紹介では「僕はまち歩きの達人なのに、こんなに太っているなんて、おかしいですよね。僕は食べるのが大好きなんです。」と話すなど、最初から最後まで笑いの止まらない楽しい講演会であった。



町並みウォッチング



みそ蔵講演会

講演会後は、夕方からみそ蔵コンサート。今回はアコーディオンの新井武人さんとピアノの中島千智さんの演奏。ヨーロッパの街並みを思い起こさせる映画音楽や躍動あふれるオリジナル曲を演奏してもらった。軽快な演奏に多くの参加者が酔いしれたようだった。みそ蔵では、いろいろなジャンルの音楽が可能である。200年の歴史を持つ空間の包容力であろう。

筆者は前日までの多くの準備、当日のイベントの運営と息つく暇がないくらい充実していた。 参加していただいた皆さま、本当にありがとうございました。





みそ蔵コンサート

(5) 唐津街道サミット

これは、唐津街道の宿場町の関係者で構成する「唐津街道サミット」の第1回目を前原宿で開催したものである(11月22日)。地域活動を積極的に推進している唐津街道沿いの赤間宿(赤間地区コミュニティ運営協議会)と前原宿(前原名店街)が、西新の高取商店街と姪浜宿(唐津街道姪浜まちづくり協議会)に呼びかけて実施したもので、各地域の関係者32名が参加した。姪浜宿からは筆者を含め3名が参加し、前原の郷土史家・有田和樹氏らの案内で前原宿を見て回った。有田さんの手作りのマップが印象に残った。前原宿は、町並みとしては連続していないが、古い商家などが点在し、街道の名残を感じることができた。その後、古い商家を改装した飲食店「古材の森」で、それぞれの地域の抱える課題や取り組み事例などについて話し合った。

今回のサミットでは、いろいろな関係者が商店街を元気にしたいと活動しているのがよくわかった。姪浜にもこうした情熱を持った方々が増えれば、地域も変わっていくだろうと感じた次第である。地域にある身近な宝(モノ、ヒト、コト)を探求し、しっかり活用していくことにもっと目を向けたらいいのではないだろうか。

なお、今回の意見交換がきっかけとなり、唐津街道サミットが組織され、広がりを見せながら 毎年1回程度のペースで、各宿持ち回りで開催し、町おこしや地域づくりをテーマに意見交換を 行っていくことになった。





第1回唐津街道サミット

(6)「版画で歩く福博のまち~二川秀臣~」展

これは、「福岡市赤煉瓦文化館誕生 100 年祭」の一環として、協議会と福岡市で共催したものである(1月 25 日~2月8日)。内容としては、「福博のまちづくりを考える一環」及び「広域的視点から唐津街道の町並みを考えるきっかけづくり」として、唐津街道、長崎街道などの旧街道の風景をテーマに、九州各地で展覧会を開催している版画家・二川秀臣氏が描いた福博の町並みを版画で紹介するものである。期間中、1千人を超える市民の皆さまに来場いただき、箱崎~博多~福岡~姪浜を中心とした歴史的建造物と町並みの魅力を版画で楽しんでいただいた。

二川さんには、この展示会に合わせ、赤煉瓦文化館だけでなく、福岡城址など周辺の歴史的建造物を新たに彫っていただいた。赤煉瓦文化館の版画は、二川さんのご厚意により、展示会終了後も同館に寄贈・展示させていただいている。

筆者は協議会の事務局長及び福岡市職員(当時は都市景観室に在籍)として、企画~広報~準備(版画の運搬・設営・返却)~案内まで担当した。まさに一人数役である。二川さんからいた

だいた赤煉瓦文化館の版画は今でも自宅に飾っている。二川さんにはその後も、姪浜での版画の展示に何回も協力していただくことになるが、とても礼儀正しい方で多くの手紙や展示会の案内状をいただいた。筆者はそのすべてを今でも大切に保管している。機会があれば「版画家・二川秀臣×姪浜まちづくり人・大塚政徳」交流展を企画したいと考えている。





「版画で歩く福博のまち~二川秀臣~」展

(7) 春の町並みイベント 2009

これは、平成 20 年度の最後の事業となる「ガイドツアー&ウォークラリー、みそ蔵コンサート」である (3月 20 日)。広報ちらしにも二川秀臣氏の版画を積極的に使わせていただくようになった。ガイドツアーは今回で3回目となり、回を重ねるごとに準備にも慣れていった。ウォークラリーは初めての試みだったが、参加者が少なかったことや対応できるスタッフが限られていることなどから、今回限りとなった。

みそ蔵コンサートも3回目となり、協議会の事業として次第に定着していった。演奏者の選定に当たり、今回は前年の秋の唐津街道サミットで前原宿を訪れた際に古い建物を再生した「音蔵」のことを知り、そこの演奏情報を入手し、オカリナの和田名保子さんの演奏を聴きに行った。みそ蔵でも演奏してほしいと打診し、快諾をいただいた。この時の共演者はギターの松下隆二さん。「さくら」「コンドルは飛んで行く」「ブルームーン」などの曲を演奏していただき、オカリナ、ケーナ、ギターの音色が古いみそ蔵に優しく響き渡った。至福の時である。参加者からも感嘆の声をいただいた。苦労が吹き飛ぶ瞬間である。参加者からの喜びの声は、次の活動へのエネルギーになっていった。







みそ蔵コンサート

コラム5 東京駅

筆者は、平成 20 年度は「福岡市赤煉瓦文化館誕生 100 年祭」の実行委員会のメンバーとしても活動した。福岡市赤煉瓦文化館は辰野金吾氏設計の建物であるが、辰野氏設計の建物のうち、筆者が何回も見てきたのは東京駅である。今でこそ東京のシンボルとなっているが(もちろん竣工した当時もそうであったが)、筆者が東京にいた頃(昭和 55 年~61 年)はそんなに大事にされているという印象はなかった。赤煉瓦駅舎の保存運動が起こったのは、筆者が東京を離れた頃であろうか。その後、平成 15 年に国の重要文化財に指定、平成 19 年から復原工事が行われ、創建時の意匠も忠実に再現された。





昭和55年頃の東京駅









現在の東京駅(平成26年6月撮影)

10 平成 21 年度の活動

(1) 町家再生の実践

平成 21 年度に入り、まち歩きイベントで時々見せていただいたことが縁で、町家所有者から改修に当たっての相談を受けた。この町家は、築 100 年程の建物であり、以前は八百屋さんとして使われていた。しばらくは空家であったが、埼玉在住の所有者が定年を機会に姪浜に戻ってくるのに合わせ、どのように改修したらいいのか筆者らが相談を受けたものである。

まず、建物の調査を行ったが、明治、大正、昭和の3つの時代が同居する建物であることが判明した。土間が玄関から裏庭まで続いているのが特徴で、裏庭には隣のお寺の博多塀も見ることができる。博多塀が造られた時期は不明であるが、造られた当時の雰囲気を感じさせている。また、大正時代に改修した道路側の建物のガラスもほぼ当時のままである。台所には、懐かしいかまどもあった。そして、よく調べてみると、八百屋さんの前は魚屋さんとして使われていた痕跡もあった。





改修前

筆者らの要望は、外観については今の雰囲気をできるだけ維持し、内部については現在の生活に合うような形にリフォームしていただきたいということであり、具体的な提案もさせていただいた。所有者も景観への配慮については当初から前向きであり、方向性は同じであった。行政からの補助金は一切入っていないが、景観形成に十分配慮していただき、所有者には感謝の気持ちでいっぱいである。



まちづくり協議会からの提案





改修後

まち歩きでの案内

この他、家の改修か建て替えで相談を受け、改修という形で町並みの連続性に配慮していただいた町家もある。その一方で、空家状態であった町家の活用について打診し、内部まで調査させていただいた家もあったが、親族の反対で解体・建て替えられた家もある。

また、自主的な取り組みとして、古い町家や家屋が飲食店やカフェ、美容室などとして再生・ 活用される事例も増えてきた。これも筆者らの活動の成果かも知れない。

(2) 灯明コンサート IN 興徳寺

多くの寺社があることも姪浜の大きな特徴であるが、地域の人は意外とその歴史や魅力を知らない。筆者は協議会発足当時から古刹・興徳寺でコンサートを開きたいと考えていた。平成 18 年に福岡市都市景観室が御供所の承天寺で実施したライトアップウォークコンサートが印象に残っていた。平成 19 年 9 月に協議会で実施した姪浜住吉神社での灯明をともした「まちづくり講演会&シンポジウム」も頭によぎった。灯明コンサートは、音楽だけでなく、普段味わうことのできない幻想的な雰囲気と魅力的な夜間景観を演出し、参加者に姪浜の魅力を伝えていくことを目的に行うものである。

具体的に企画を始めたのは6月頃である。7月の定例会で承認後、8月上旬に興徳寺の福山住職に依頼に行った。興徳寺は禅宗のお寺であり、こうしたイベントは難しいと考えていたが、ご住職からは快諾をいただき、演奏の分野についてもオカリナがいいなという要望をいただいた。早速、この年の春にみそ蔵で演奏してもらった和田名保子さんに打診し、こちらも快諾をいただいた。その後は、コンサート当日(10月3日)まで具体的な準備を進めていくことになった。課題は、全体の配置計画、照明や灯明の配置計画、ステージの設置方法、雨天時の対応などであったが、現地で確認を重ね、入念に準備を進めていった。

また、特に苦労したのは、広報である。今回は募集人数が 200 名である。協議会にとっては、かつてない大きなイベントである。いつも通り広報ちらし、市政だより、公民館だよりなどを活用していたが、集客に苦労していた。そのため、知り合いの朝日新聞の原口記者に何とか記事にしてほしいと何度もお願いした。原口記者からは「大塚さん、お願いはわかるが、中央紙は紙面が限られているため、同じ団体の記事を何回も書くわけにはいかない。何か新しい要素がないと難しい。」というアドバイスをいただき、知恵を絞り何とか記事にしていただいた。記事が出た途端、それまで伸び悩んでいた申込みが数日間で 100 名を超え、マスコミの力を実感した。最終的

には 200 名を超える応募があった。これ以降、何を行うにしても「マスコミに記事にしてもらえる内容」を常に意識して活動を進めていくことになった。



朝日新聞に掲載された記事

当日の設営は、ステージの設置、イスや照明の配置、灯明の準備など順調に進んでいった。天気の心配もなかった。午後7時からの開演に合わせ、6時過ぎから灯明の点火を始めた。西区歴史よかとこ案内人さんのご厚意により、希望者には興徳寺の説明をしていただいた。午後7時の開演時には、周辺はかなり暗くなり、幻想的な雰囲気となっていった。司会者による興徳寺の紹介も「興徳寺にまつわる白うさぎ伝説」を盛り込んだもので、この伝説を初めて知る参加者も多かったことだろう。





準備を終えて

午後7時15分頃から演奏をスタート。演奏はオカリナ&ケーナの和田名保子さん、ピアノの塚

本美樹さん、ウッド・ベースの間村清さんの3名。「旅愁」「小さい秋みつけた」「コンドルは飛んで行く」「月までとどけ」「赤とんぼ」「黒田節」「つきせぬ想い」などの曲を演奏していただいた。オカリナ、ケーナ、ピアノ、ウッド・ベースの音色が750年の歴史のある古刹・興徳寺の境内に優しく響き渡った。この日は中秋の名月。大きなクスノキの枝の上から鮮やかなお月さんが顔を見せた。夜の深まりとともに、400個の灯明もより幻想的となり、感動的な時間となった。参加者からも喜びの声をたくさんいただいた。



灯明コンサート IN 興徳寺

(3) 秋の町並みイベント 2009

これはガイドツアーと合わせ、みそ蔵で長谷川法世さんの講演会「福博町並みゼミ(11 月 14 日)」と展示会「町家散歩展(11 月 14 日~21 日)」を実施したものである。マスコミに PR していくためには、毎年同じような繰り返しではなく、常にアンテナを張り、今何をしたらいいのかを考えておかないといけない。「町家散歩展」は、平成 19 年に読売新聞で連載された福博の町家のイラストの展示会で、平成 21 年の夏に博多町家ふるさと館で実施されており、みそ蔵でもぜひ実施したいと考えていた。巡回展示という位置付けである。法世さんに依頼したところ快諾をいただき、展示会に合わせて講演もしていただくことになった。

展示会で苦労したのは、展示計画である。イラストのサイズが小さいことや、イラストと説明 文が分かれているためイーゼルが使いにくいこともあり、テーブルとみそ蔵のベンチを利用する ことになった。また、小さな木製イーゼルや説明文用の斜めの手作りの台もたくさん用意するこ とになった。実は、筆者はみそ蔵にあった2つの味噌樽を中央に据え、そこに法世さんの作品を 展示したいと考えていたが、幻に終わった。今でも少し後悔している。 講演会は、平成19年9月のキックオフイベントと同様、法世さんが取材し描いた姪浜の町家のイラストをスクリーンで紹介しながら、その時々のエピソードを話していただいた。もちろん、みそ蔵の白水家も含まれる。実際に取材した家で行う講演会や展示会は、より意義のあるものであると思う。数あるみそ蔵でのイベントの中でも、筆者の記憶に残るイベントの一つである。





町家散歩展

講演会

また、展示会や講演会に合わせて、ガイドツアーも実施した。同じ日に複数の事業を重ねることは、事務局長である筆者の負担は当然増えるが、できるだけ多くの方々に法世さんの作品を見てほしかったからである。今回は、ガイドツアーについては触れないが、この頃、筆者が西日本新聞に投稿した記事を紹介しておこう。「姪浜ことりっぷ」の提案でもある。常にアンテナを張り、マスコミへのPRの機会をうかがっていたのである。



筆者が西日本新聞に投稿した 「姪浜ことりっぷ」の提案

(4) 旧町名表示板の設置

町並みイベントだけでなく、具体的に目に見える形でまちづくりの効果を伝えていくため、協議会でできることから取り組むことになった。その最初の事例が旧町名表示板の設置である(平成22年1月~)。これは、地域の方々に地域への誇りや愛着を感じていただきたいと考え、昭和30年代の町名表示板を作成し、散策コース(景観回遊路)の主要な場所に設置しているものである。表示板は会員の手作りであるが、書道の得意な肥塚さんがいたからこそできた協議会オリジナルの事業である。残念ながら安いプレートを使用しており、雨が直接かかる場所には適していなかったようだった。予算を確保して、再度作り直してもいいくらいの意義のある事業である。そして、外注するのではなく、会員が手作りで地域への想いを込めて作ることに意義がある。

そのためには、書道や工作が得意で、地域への想いと情熱のある肥塚さんのような人材が必要である。後述する「姪浜ブランド認定事業」や「姪浜町家認定事業」も肥塚さんがいたからこそできた事業である。肥塚さんが卒業した協議会は、活動の幅が狭くなり、姪浜の身近なまちづくりの推進にとって、大きな痛手となったのではないだろうか。







旧町名表示板

(5) まちの案内所の開設

平成 22 年 2 月には、国の登録有形文化財であり、地域のシンボルとなっているマイヅル味噌の建物内に「まちの案内所」を開設した。これは活動を進める過程で、会議をするスペースや荷物を置くスペースが必要になり、マイヅル味噌さんのご厚意により格安の家賃で場所を借りることになったものである。味噌貯蔵用の冷蔵庫が置かれていた 20 ㎡の部屋を、約3ヶ月かけて会員が手作業で壁塗りや床張り替えなどを行った。

オープン当日も早速、福岡市都市景観室や NPO 福岡デザインリーグ、西区歴史よかとこ案内 人の方々と秋のまち歩きイベント「景観歴史発掘ガイドツアー」について打ち合わせを行い、3 つの新聞社からも取材に来ていただいた。まちの案内所では、平成 27 年 3 月までの約 5 年間、姪 浜の見どころを紹介した歴史散策マップを配布したり、イベントや唐津街道に関する情報提供などを行ってきた。





改修の様子





案内所の開設

(6) 春の町並みイベント 2010

これは、平成 21 年度の最後の事業で、春のイベントとして定着してきた「ガイドツアー」と「みそ蔵コンサート」である(3月 27日)。ガイドツアーは、案内するコースは今までとほとんど変わっていないが、初めて桜の開花時期に合わせて開催したものである。桜の名所である光福寺、万正寺、姪浜住吉神社の桜もほぼ満開で、以降の春のガイドツアーは3月の最終土曜日を基本に実施していくことになった。

みそ蔵コンサートについては、今回が4回目となった。会員の阪本さんの紹介でリュート(深町信秀氏)とリコーダー(執行絵里氏)による古楽の演奏とした。リュートは聞き慣れない方も多いと思うが、弦楽器の一種で、主に中世からルネサンス、バロック期にかけてヨーロッパで大変愛用された古楽器で、素朴で繊細な美しい音色が特徴である。また、その美しく魅力的なフォルムは、絵画や彫刻、詩などの題材として、多くの芸術家たちの作品に残されている。深町さんと執行さんの息の合ったコンビで「ルネサンス音楽と過ごす春のひととき」をテーマに、「バッハ

の G 線上のアリア」「サリーガーデン」「ロビンは緑の森の中へ」など 20 曲以上を演奏していただき、その美しい音色がみそ蔵に響き渡った。





ガイドツアー



みそ蔵コンサート

(7) 定例会

最後に地味ではあるが、定例会について触れておこう(平成 19年5月~)。定例会については、発足当時から毎月1回を基本に実施してきた。スケジュールやイベントが主な議題であるが、筆者の定例会の進め方は、必ずレジュメをしっかり作り込み、何を協議するのか、何を決めるのかを明確にしてきた。議事録代わりにもなるし、欠席された方にも協議内容がわかるようにするためでもある。また、進行が事務局からの一方通行とならないよう、ワークショップをしたり、市役所の出前講座を取り入れたりするなどの工夫も忘れなかった。





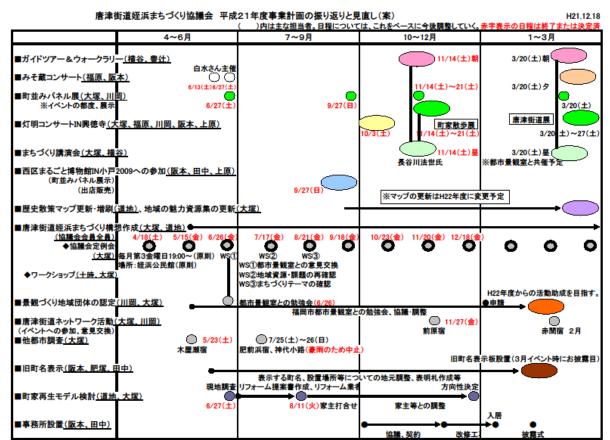
定例会の様子





定例会の様子

定例会などの資料。筆者は大半の資料を作成してきた。



平成21年12月の定例会の資料の一部

11 1 st ステージの振り返り

(1) 主な活動メンバー

発足時は、福岡市職員を中心とした前述の研究グループ「博多津にぎわい復興計画研究会」の会員が主体であったが、活動を続ける中で市職員は次第に減少。その一方、発足時は数人であった地域会員は、川岡会長の声かけもあり、少しずつ増えていった。その中には、地域で顔の広い川岡さんに依頼され何となく会員になった人もいるし、ふるさと・姪浜のために役に立ちたいと思って入会した人もいる。後者の代表は、肥塚さんである。肥塚さんは川岡さんの同級生でもある。筆者が事務局長として協議会の活動を牽引していく中で、肥塚さんの存在は次第に大きくなっていった。多彩な活動を展開できたのも、肥塚さんの存在が大きかった。

会員数も発足当時の10数名から約3倍の35人(協力会員を含む)に増えた。会の活動に賛同してくれる人が増えたということだろう。ただ、実際に活動に参加する会員は限られており、活動の拡大とともに事務局長である筆者の負担は増えるばかりであった。



灯明コンサート IN 興徳寺(平成 21 年 10 月)

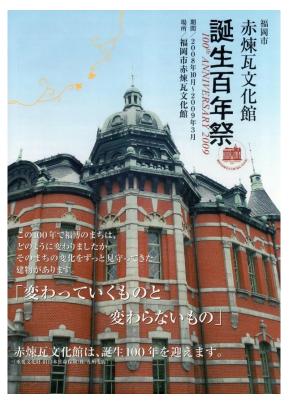


ガイドツアー(平成 22 年3月)

ちなみに、筆者の1stステージの3年間は、仕事や姪浜の活動以外にも多忙を極めていた。平成19年度からは筆者の住むマンション(906戸)の管理組合の役員となり、特に平成20年度は副理事長という要職を任され、毎週のように会議に出ていた。その後も、筆者の住む棟の大規模修繕委員長を任され、業者選定や住民との調整など忙しい時期を過ごした。

また、平成 20 年度は「福岡市赤煉瓦文化館誕生 100 年祭」の実行委員会のメンバーにもなり、様々 な活動に関わった。公私ともども忙しい時期ではあ ったが、大変充実していた時期であった。

> 「福岡市赤煉瓦文化館誕生 100 年祭」の 実行委員会のメンバーとしても活動



(2)活動資金

この時期の主な活動資金は、福岡市西区が実施していた「西区やる気応援事業」である。平成 19~21 年度の3年間、毎年50万円を助成していただき、活動を軌道に乗せることができた。各 会員から会費を徴収していなかった時期であったので、タイムリーな補助金であった。

1年目(平成19年度)は総事業費67万円のうち、助成金(50万円)が大半を占めていたが、3年目(平成21年度)は総事業費103万円で、助成金以上の額をイベント参加料やバザー収入などで調達できるようになった。補助金はあくまで従で、それがなくなっても事業を継続していくことを資金面の目標にしてきており、概ね目標を達成することができた。

【1st ステージの事業費の変遷】

単位:千円

	助成金	自己資金	総事業費
平成 19 年度	500	170	6 7 0
平成 20 年度	500	3 4 3	8 4 3
平成 21 年度	500	5 3 2	1, 032

(3)表彰、認定

表彰としては、平成 21 年度に「福岡市都市景観賞」「ふくおか地域づくり活動賞」などを受賞した。活動開始から 2 年余りで、こうした賞を受賞できる団体に成長したことになる。これは、1 st ステージの精力的な活動の成果であり、今後の活動の大きな励みにもなった。

なお、都市景観賞受賞の審査委員講評では次のように記されている。まさに筆者が目指したシナリオ通りに進んでいった。

都市景観賞受賞講評

唐津街道は豊臣秀吉が文禄元年(1592 年)に名護屋城出陣に際して利用し、江戸時代には福岡藩が参勤交代や長崎警備に使った。奈良・平安時代の律令官道との関連も指摘され、歴史ある重要な街道であった。本活動はその宿場の一つである姪浜の歴史文化資源を活用して景観まちづくりを進めるものである。協議会発足から2年余りの間に、歴史文化資源の調査、学習、発信、イベント、他地域との交流等をあわせて25件以上を実施した。今後はまちづくり構想策定や町家再生など、具体的な方向に進みつつある。事務局は協議会自らが担い、地域住民の主体性が明確である。このように本活動は地域主体の着実な歴史景観まちづくりとして高く評価される。

また、博多部の御供所まちづくり協議会に続き、福岡市都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」に認定された(平成 22 年 3 月 16 日)。これは、これまでの景観まちづくりに寄与する協議会の活動を福岡市が高く評価し、認定したものである。この認定により、景観に配慮した自主的なまちづくり活動に対し、必要な経費の一部の助成を受けることができるようになった。わかりやすく言えば、協議会が景観形成に配慮したまちづくりを進めていくことを行政が認定できる制度であり、自他ともに「景観」をキーワードとしたまちづくりを進めていくことを地域内外に宣言するようなものである。







景観づくり地域団体の認定

(4) 総括

このように1 st ステージの3 年間は、試行錯誤を繰り返しながら頑張ってきた。自分でも、かなり突っ走ってきたと思う。他の団体であれば、10 年間に相当するものであろう。いくつかの賞もいただき、活動の励みにもなった。

スタート時は、「地域住民自身の地域の魅力の認識不足」という課題に対して、「地域の魅力の 再認識と地域内外への発信」という活動目標を立てていた。この課題や目標に対し、様々な事業 を実施してきた。イベントは一見外向きのようなイメージを与えるが、そうではない。地域外か ら多くの方々に来ていただくことで、地域の方々に「外からの来訪者が増えている。姪浜って魅 力がある地域なんだな」と感じていただき、誇りを持っていただくことがイベントの趣旨なので ある。当時の資料を振り返ると、筆者はこの時期の成果について次のように記している。

協議会に対する当時の筆者の評価

- ・協議会が発足して以来、一貫して「地域の魅力資源の再発見」をテーマに活動してきた。その結果、地域の人にとっては、身近にあり何気ないものと感じているものが、外部の人が評価することで、本当に大事なものであることを再認識してもらえたのではないかと考えている。
- ・活動を続ける中で、まちづくりについての認知度が向上し、地域の人の参画が次第に増えてきている。イベント参加者からは感謝と感動の言葉をたくさんいただき、活動の励みとなっている。また、各事業に当たっては、関係する団体や寺社、お店、住民の協力を得ながら実施しており、今後のまちづくりに向けての関係づくりも進んでいる。
- ・様々な活動を通して、いろいろな方々とのネットワークが広がるとともに、当協議会の認知 度も向上している。今後、地域固有のまちづくりを進める上で大きな財産となるものと確信 している。

1st ステージに掲げた目標は、3年間の目標ではなく、新たな目標を付加しながら、進化と深化を求めながら、以降も継続的に事業を進めていくことになる。

12 2nd ステージの活動(主に平成22年度~25年度)

(1) 地域課題、まちづくりの目標

平成 22 年度からを 2 nd ステージと位置付け、活動もより活発になっていった。 1 st ステージ の活動により、地域内外に姪浜の魅力を発信してきており、こうした成果を受け、新たな地域課題にチャレンジしていくことになった。当時の課題は「地域のまちづくりの方向性が不明確」「まちづくりの効果を具体的に目に見える形で示す」ことであった。こうした状況の中で、筆者らは「姪浜のまちづくりの方向性を示す計画を作ろう」「地域でできる取り組みから実践しよう」という目標を立てた。

2nd ステージの地域課題、活動目標

●地域課題:①地域のまちづくりの方向性が不明確

②まちづくりの効果の具現化(具体的に目に見える形で示す)

●活動目標:①地域協働のまちづくり計画の策定

②景観まちづくりの実践

(2) 2nd ステージの最初の定例会

2nd ステージの最初の定例会(平成22年4月16日)では、唐津街道姪浜ならではのまちづくりに向けて、「姪浜のお宝(他地域にはない姪浜の魅力)」「まちづくり協議会の役割」「今後の活動」「まちづくりの推進に当たっての協議会心得」について確認し、協議会の方向性を明確にした。なお、姪浜の宝については、今までの調査や関係者の声、イベントでのアンケート結果を踏まえ、筆者が分析したものである。

姪浜のお宝

- ●古い町家、寺社、狭い路地など、昔の宿場町の雰囲気を感じさせる町並み
- ●神話の時代(神功皇后、小戸大神宮など)、中世(元寇防塁など)、近世(旧唐津街道など)の様々な時代の歴史が息づいていること
- ●興徳寺、住吉神社などの多くの寺社と境内の豊かな緑
- ●商船で栄えた商人町、漁業を営む漁師町、宿場町、寺社町などの多様な顔を備えていること(それらの名残が随所に感じられること)
- ●地元で獲れる新鮮で美味しい魚
- ●身近な商店街(地元で作って売るお店が姪浜商店街の特徴)
- ●河童祭り、夏越祭りなどの地域のお祭り
- ●地域の人間的なつながり(路地や商店街により、昔ながらのコミュニティがある)
- ●周辺には、愛宕神社、小戸大神宮、生の松原元寇防塁などの歴史文化資源の他、マリノアシティなどの新しい魅力スポットがある。

まちづくり協議会の役割

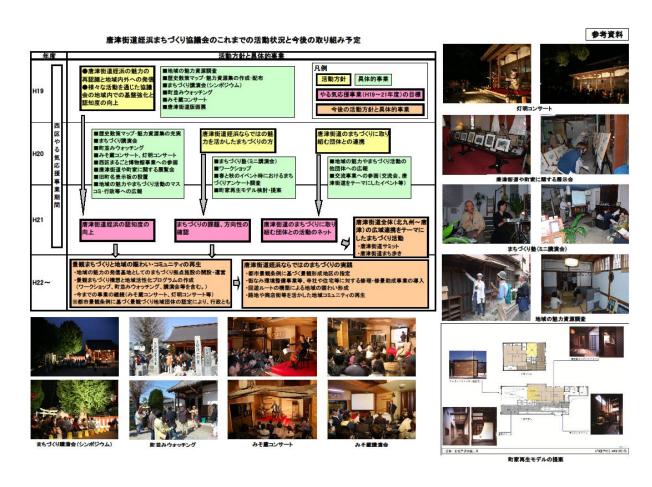
- 唐津街道姪浜のまちづくりは、上記のお宝を地域の魅力資源(共有財産)として認識し、活用していくこと。これだけの魅力を備えた地域は、福岡市内にはない。
- ●協議会の役割は、様々な活動を通じ地域内外に唐津街道姪浜の魅力を発信するとともに、地域 固有の歴史・文化資源を活かしたまちづくり計画を策定し、実践していくこと。

今後の活動

- ●今までの活動の継続
- ●案内所の機能強化(町並み案内、町家改修相談など)
- ●まちづくり構想の作成
- ●景観まちづくり計画の作成
- ●景観行政との連携による景観まちづくりの実践

まちづくりの推進に当たっての協議会心得

- ●焦らず、怒らず、<u>根気よく</u>の精神で。まちづくりは、一歩後退二歩前進、一歩前進二歩後退の 繰り返し。根気よくやりましょう。
- ●何でも楽しくやりましょう。まちづくりに関わる人自らが楽しくなければ、長続きしません。
- ●継続は力なり。どんなに小さな取り組みも、10年続けば立派な成果につながります。
- ●<u>若者、ばか者、よそ者</u>の視点を大切にしましょう。特に外部からの視点は、新鮮な意見や感覚を含んでいます。
- ●黙っていて、誰かがまちづくりをやってくれるわけではありません。<u>地域の一人ひとり</u>が、地域の魅力資源を活かしたまちづくりの推進に向けて<u>目標と当事者意識</u>を持って取り組みましょう。



平成 22 年4月の定例会資料の一部

13 平成 22 年度の活動

(1) まちの案内所披露式

平成22年度の最初の事業として、マイヅル味噌の建物の中に開設した「まちの案内所」の披露式を5月16日に実施した。これは、協議会設立3周年を兼ねたものである。3年間お世話になった関係者や案内所の改修工事に協力いただいた方などをお招きして、今までの活動報告を行うとともに、今後の姪浜のまちづくりの方向性について説明した。こういう機会を利用しないと、地域の方々は協議会の活動を知らない。地域資源集の概要版も配布したが、多分初めて見る方も多かったことであろう。そして、改めて姪浜のいいところを再認識していただけたことと思う。

その後は、祝賀会で盛り上がった。いつもお世話になっている長谷川法世さんをはじめ多くの 方々に来場いただき、会場となったみそ蔵も喜んでいたことであろう。

また、案内所開設記念のみそ蔵コンサート「能 IN みそ蔵」を 6 月 19 日に実施した。 3 月に古楽の演奏をしていただいた深町さんと執行さんの紹介によるものであり、能楽大倉流小鼓方の久田舜一郎氏による小鼓の演奏と能についての講演であった。能の歴史や演目の舞台背景、湿度による音の鳴り具合の違い、たたく位置で音階の変化を出すといった解説に、参加した人たちは感心していた。能の演目「翁」の演奏では、凛とした掛け声と鼓の音色がみそ蔵に響き渡った。



まちの案内所披露式



能 IN みそ蔵

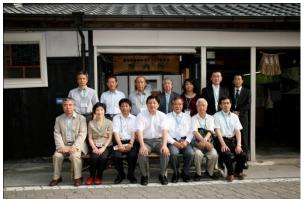
(2) 福岡市長との対話集会「聞きたかけん」

福岡市長との対話集会「聞きたかけん」が6月10日にマイヅル味噌のみそ蔵で開催された。会員や関係者14名が出席し、吉田市長と「景観と回遊性」をテーマに懇談を行った。冒頭に筆者が協議会の活動状況をパワーポイントで説明した後、意見交換を行った。その中に、姪浜魚市場前付近からマリノア方面にかかる名柄川人道橋の提案があり、最初はこれに話が集中した。地元の要望を伝える場ではないので、好ましい展開ではなかったが、何とか次の話題へと移った。地元の人は役所の人が来ると、何でも要望したくなるが、まずは地域で何ができるかを考えることが先である。まだまだ成熟していない協議会の姿が浮き彫りになった場面であった。

橋の件については、その後、不法に係留された船舶の撤去に向け、福岡市から名柄川の管理者である福岡県に要望が出され、まずは不法係留船の撤去に向けて動き出すことになった。

また、市の担当者の話によると、福岡市の歴史ある町並みと言えば、どうしても博多部の方に 目が向けられがちであるが、唐津街道沿いの姪浜に未だに江戸時代から昭和初期にかけての古い 町家が約 100 軒も残っていると聞いて驚いたとのことであった。





聞きたかけん

(3) 九州大学アーバンデザインセミナー

7月9日に九州大学の大学院生を対象にした「アーバンデザインセミナー2010」がマイヅル味噌のみそ蔵で開催された。これは、九州大学の大学院生約15名が「歴史」「回遊」「地域の活性化」「町並み」などをテーマに、姪浜のまちづくりについての提案を発表し、地域の皆さま方と活発に意見交換を行ったものである。

姪浜には、日本誕生神話や神功皇后伝説のある海岸、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁跡、江戸時代に栄えた街道や廻船が出入りした港、大正から昭和 30 年代にかけての炭鉱など、様々な歴史が積み重なっている。一方、区画整理や埋め立てによってつくられた姪浜駅周辺や海辺などには現代的な商業施設や高層マンションなどが建ち並び、古くからの街道や港の風景とは対照的な表情を見せている。このように姪浜は、時代や目的によってそれぞれ異なる空間づくりの技術が用いられ、風景が上書きされ続けてきた。

今回のテーマは「上書きされた都市」ということで、多彩な歴史を持つ姪浜にふさわしいテーマであった。空間特性、都市形成や商業空間の変遷、歩行者空間のあり方などについての学生の皆さまからの斬新な視点と大胆な提案は、今後の地域づくりに大いに参考にさせていただきたいと思った次第である。





九州大学アーバンデザインセミナー

(4) かわら版の創刊

地域の魅力やまちづくり活動を広く地域住民に発信することを目的とした「かわら版」を9月

1日に創刊した。創刊号はこれまでの3年間の活動を主体に、「姪浜・まちかど遺産ピクニック」や「トピック」「秋のイベント」などを掲載した(A3 版、両面カラー)。姪北校区や姪浜校区の回覧板での広報の他、協議会案内所、地域内の主要なお店、近隣の5 公民館、西区役所、福岡市情報プラザなどで配布した。マスコミへの広報にも努め、4 つの新聞に掲載された。こうした広報の効果もあり、当初印刷の3,000 部がすぐに無くなり、急きょ3,000 部を増刷することになった。地域内外の評判も上々であり、協議会の活動を広くPR する絶好の機会となった。

以降も、年間1~2回のペースで発行し(各回4,000部程度)、協議会の活動内容や姪浜の魅力の紹介をしてきた。筆者が協議会に在籍中は、平成27年11月までに第9号まで発行。この間、NPO日本都市計画家協会「日本まちづくり大賞」の受賞時に号外を発行することもあった。かわら版の編集長は筆者であり、原稿の大半も筆者の執筆によるものである。第4号からは「事務局長通信」などのコーナーを設け、その時々の筆者の想いを伝えてきた。これについては、「コラム」の中で順次、紹介していきたい。



かわら版

(5) 先進都市調査

平成22年度に「地域づくりを巡る町並みツアー」を実施した。これは、福岡市から「景観づくり地域団体」の認定を受け、景観に配慮したまちづくりの推進に向け、会員の勉強や関係団体との協力体制の強化を目指したものである。

まずは、9月に事務局スタッフ6人で肥前浜宿(鹿島市)、塩田宿(嬉野市)、森岳商店街(島原市)、神代小路(雲仙市)を視察した。いずれの地域も、地域固有の古い町並みや歴史的建造物を活かしたまちづくりを進めている。視察に当たっては、各地域への視察依頼や日程調整なども

筆者が中心になって行うことになるが、手慣れたものである。

肥前浜宿は、浜川の河口につくられた在方町(江戸時代の農村における小都市集落)である。 江戸時代は長崎街道多良往還(多良海道)の宿場町として、また有明海に臨む港町として栄え、 明治以降も酒造業や水産加工業に支えられ、豊かな町並みがつくられてきた。江戸時代から「浜 千軒」といわれ、通り沿いには今でも白壁土蔵造りの酒蔵や草葺の町家が立ち並び、伝統的な景 観を色濃く残している(伝統的建造物群保存地区)。漆喰のはがれた土壁が素朴で風情がある。9 月中旬でまだ暑い時期であったが、酒蔵に入ると少しひんやりしていた。町並みが産業や生業と 関係あることが実感できるまちである。





肥前浜宿

塩田宿もかつて長崎街道沿いに栄えた宿場町である。すぐ近くを流れる塩田川は当時、嬉野や有田など、焼物の積み出しや陸揚げを行う港として利用され繁栄した。物資取引の中心地となった馬場下一帯は今も白壁造りの町家が残り、当時の様々な建築様式がかつての面影を伝えている(伝統的建造物群保存地区)。また、塩田石工による石垣や仁王像、恵比寿像などが加わって良好な歴史的風致を構成している。人通りは少なかったが、町家、寺社、塩田川など多彩な魅力資源と歴史は、姪浜の参考になると思った。地域資源の掘り起こしの大切さを改めて感じたところである。





塩田宿

森岳商店街は、島原市内の6つの商店街のひとつである。近くに島原城があり、この特性を活かしたまちづくりを進めている。伝統的建造物群保存地区ではないが、古い町家や商家を「登録

有形文化財(文化庁)」「まちづくり景観資産(長崎県)」「まち並景観賞(島原市)」の制度で認定することで、歴史的景観を活かしたまちづくりを進めている。また、古い町並みと調和した商店(酒屋、金物屋、レストランなど)が人気となっており、姪浜でも参考になる事例である。





森岳商店街

神代小路は、天正 15年 (1584年) の九州国割を経て、慶長 13年 (1608年) 鍋島信房が初代 領主となったことに始まる。城址の森と塀を兼ねた川に囲まれた武家地ならではの閉鎖的な空間 を有している。江戸中期の地割りをよく残し、武家屋敷建築の主屋や長屋門が、屋敷囲いを構成 する生垣や石垣、水路などの環境要素と相まって美しい町並み景観を醸し出している (伝統的建造物群保存地区)。定年を機会に神代小路に戻られる方もいるとのことであるが、高齢化が進み、人口も減少するなど、町並みを維持していくことの難しさを感じた。





神代小路

また、12月に豊後高田市の昭和の町、臼杵市二王座、杵築市城下町を視察した。参加者は、会員、よかとこ案内人さんなど 18名であった。

昭和の町は、昔どこにでもあった町並み(今は失われた町並み)を逆手にとり、『商業と観光』の一体的振興策として「昭和の町」づくりという明快なテーマをもとに、店舗修景(お化粧直し)、かつて1万俵の米を納めていた旧農業倉庫を活用した観光拠点づくり(昭和の夢町三丁目館)、地元住民がまちを紹介する「ご案内人」制度など、オリジナリティある取り組みが行われている。昼食会場でのアルミ容器の給食が懐かしかった。

臼杵は城下町で、寺院、町家、商家、武家屋敷、洋館が混在しており、独特の町並みを形成している。特に二王座付近は、ゆるやかな坂道が続く静かな町であり、伝統的建造物群保存地区ではないが、質の高い建築が豊かな町並みを創出し、変化のある独特の風情を醸し出している。町家も狭い路地に密集して建ち並んでおり、迷路のようである。江戸時代から現在に至るまでの長い歴史を随所に感じることができた。





臼杵

杵築は江戸時代の城下町の風情が残るまちである。杵築城を中心として南北の高台に武士が住み、その谷あいに商人が住んでいた町で、「サンドイッチ型城下町」の構造となっている。特に北台武家屋敷通りは、上級武士や家老たちの屋敷がずらりと並び、今でも色濃く江戸時代の面影を留めている。また、江戸の粋な風情を残す町家界隈の町並みもあるが、道路拡幅によりヒューマンスケールの界隈性が失われ、イメージが大きく変わってしまったような気がする。神代小路と同様に、高齢化と人口減少が進み、町並みを維持していくことの難しさを感じた。





杵築

(6) 唐津街道特産品フェア

唐津街道のまちおこしに取り組む各団体との交流活動「唐津街道サミット」については、平成 20 年度から実施され、まち歩き、意見交換会などが行われてきた。平成 22 年7月には、第3回目のサミットが高取で開催。各団体による具体的なまちおこしについての活発な話し合いが行われ、「各宿場町を訪ねるツアーの開催」「唐津街道共通のロゴマークの制作」「10 月に西新から高取にかけた商店街で開催される祭り (勝鷹夢まつり) での各宿場町の PR」などのアイデアが出さ

れた。

これを受け、早速 10 月の「勝鷹夢まつり」で唐津街道のコーナーが設置され、各地域の PR と ともに、栗まんじゅう(前原宿)、地酒(赤間宿)など、それぞれの地域の特産品が販売された。 姪浜宿からはパンの店・窯蔵さんの「みそメロンパン」、魚嘉さんの「蒲鉾」、仲西商店さんの「削り節」を販売するとともに、歴史散策マップやかわら版を配布し、姪浜の魅力を PR した。





唐津街道サミット IN 高取

唐津街道特産品フェア

(7) 景観歴史発掘ガイドツアー

10月23日と24日の両日、NPO法人 FUKUOKA デザインリーグ及び福岡市と共催で、『景観歴史発掘ガイドツアー』を実施した。宿場町、商人町、漁師町、寺町などの様々な顔を持つ姪浜の歴史の痕跡とまちの風情、そして食文化にも触れていただくというツアーであった。

コースは今までのガイドツアーとほとんど変わらないが、よかとこ案内人さんの専門である「歴史」の視点に加え、デザインリーグさんの専門である「都市計画、建築」の視点が加わることで、より充実した内容となった。また、新たな町家やお寺をコースに加えた他、昼食も老舗の「たっき」さんの協力により特製の姪浜弁当(地元でとれた野菜や魚を使用)にしたことで、参加者により姪浜らしさを伝えることができたと考えている。

他の団体との共催は初めてであったが、「参加料が高くても質の高い内容であれば、参加してみたい人はたくさんいる」ということがわかるなど、刺激を受けたガイドツアーであった。これを機会に、新たな視点を取り入れたガイドツアーを展開していくことになった。



景観歴史発掘ガイドツアー



「たつき」さんの協力による特製の姪浜弁当

(8) まちづくり計画策定ワークショップ

秋の多忙な行事が一段落したところで、10月からは「地域固有の歴史的環境を活かした町並みづくりと地域の賑わい形成」に向けて、地域住民を対象としたワークショップを始めた。それまでの活動成果を踏まえ、次のようなテーマを中心に検討を重ねた。

これまでの活動を踏まえた「景観まちづくりと地域活性化」のテーマ

- ◆地域固有の歴史的環境を活かした町並みづくり
- ◆歴史的魅力を活かしつつ、臨海部の集客施設との連携をも考慮した商店街の賑わい形成
- ◆町家、路地、商店街などで育まれてきた豊かな地域コミュニティの維持・継承
- ◆古い町家を活かした快適で新しい暮らし方や再生活用の提案
- ◆東西の歴史回遊ルートや南北の賑わい回遊ルートの形成
- ◆これらの取り組みによる姪浜ブランドの構築と地域内外への発信

【第1回ワークショップ】

第1回のワークショップは、「姪浜の主要な場所で、まちの人たちや来街者にインタビューして

店津街道やまちづくり協議会の知名度、姪浜のまちづくりへの要望を聞き、今後の協議会活動のあり方やまちづくりの方向付けに活かす」という内容であった。その結果をまとめたものが下表である。協議会やその活動が、まだ知られていないことを実感できるワークショップであり、これを機会に知名度向上に向けた活動をさらに進めていくことになった。

第1回ワークショップのまとめ

◆唐津街道

・唐津街道を知っている人が多かったのは愛宕神社であり、神社を訪れるような人は唐津街道 にも興味があるということであろう。したがって、「歴史」をベースにしながら唐津街道を 再生していくのが良いのではないか。

◆協議会

・ 唐津街道で聞いても約半数の人が協議会のことを知らず、全体では知らない人が約4割に達する。 唐津街道のPRとあわせて協議会を知ってもらうことが必要である。

◆協議会の活動(イベント)

・唐津街道では知られているが、全体としては約6割の人が初めて聞いたという状況であり、 活動の知名度も低い。活動のPR方法やPRする場所を考える必要があるのではないか。

◆姪浜のイメージ

- ・「新しい町と古い町」「便利で住みやすい町と寂れている町」「炭鉱や漁業も含めた歴史の 町と臨海部の新しい町」など、まさに「上書きされたまち」として多様な見方をされている。
- ・このことは、まちの魅力の焦点がぼやけてしまうということにもなるが、逆に多様性をうまく活かして、いろいろな魅力を備えたまちにしていくことの可能性を秘めているということではないか。「上書きされたまち」をどのようにして「住みやすいまち、楽しいまち」に結びつけるかがアイデアの出しどころである。





第1回ワークショップ

【第2回ワークショップ】

第2回ワークショップは、4つのグループに分かれて、「姪浜の10年後を見据えたまちづくりを具体的に企画・提案する」という内容であり、それぞれのテーマに沿ってグループごとに議論し、提案をまとめてもらった。楽しく進めていくことで、まちづくりへの参加意欲を高めていくことができたと考えている。ワークショップの進行は十時さんであったが、さすがに進め方が上手で、参加者もワークショップの楽しさを実感できたのではないかと考えている。

第2回ワークショップのテーマ

〈テーマA:ドラマによる姪浜の魅力発信方法〉

・姪浜を舞台としたドラマを、放送作家になりきって企画する。

〈テーマB:散策お薦めコースガイド〉

・カップル向け、高齢者向け、若い女性向け、障がい者向けなど、利用者を想定したルートづくりを行う。

〈テーマC:大切にしたい町並み〉

・古い建物(町家)を店舗や旅館に復元し、姪浜の古きよき時代を堪能できる場所として活かす。

〈テーマD: 姪浜ブランドづくり~姪浜でマンション生活を10倍楽しむ方法~〉

・春夏秋冬の楽しみ方、子どもの遊び場、高齢者のお楽しみスポットなどを提案する。





第2回ワークショップ

【第3回ワークショップ】

第3回ワークショップでは、今までの振り返りを行うとともに、専門家の鮎川透氏(建築家) を交えて参加者と意見交換を行った。

鮎川透氏のミニ講演骨子

- ・考えをできるだけ目に見えるものにしていくことが重要である。景観のガイドラインを作るの もその一つである。
- ・まちづくりは泥臭くて、決して格好のいいものではないことを心に刻んでおくこと。
- ・ブランドをつくる。町並みもブランドである。ただ、すべて本物であることがコンセプトであ るが。
- ・町並みづくりに当たっては、昔の材料にこだわるばかりでなく、その時代時代に合った本物の 材料を使おう。
- ・景観を考えるガイドラインをなるべく早く作ることが必要であり、住民、土地所有者、建物所 有者のコンセンサスを得ておくことが必要である。
- ・町家は住みにくく、また、地主や建物所有者は自分の不動産からできるだけ高収入を得たいと望み、高層のマンションなどを建てたがるのが当たり前である。それでも、唐津街道に 100 戸近く残っている町家建築を残して、姪浜文化を後世に残す意義や、通りの魅力を高めることで人を呼び、まちが活性化する方法を丁寧に説明し、よく話し合うことが必要である。





第3回ワークショップ

(9) 広域回遊マップ作成

姪浜の魅力を再発見・再確認するため、身近にあっても日頃気付かずに見過ごしている歴史的 遺産や産業遺産、生活の痕跡、旧町名の由来、周辺エリアの魅力資源などを調査した。この調査 をもとに平成 23 年 1 月、「海恋のまち・姪浜まち歩きマップ」を作成・発行した。旧唐津街道周辺 については「歴史散策マップ」を作成していたが、今回のまち歩きマップはエリアを広げ、東は 室見川、西は十郎川、南は姪浜駅、北は博多湾までを対象とした。

内容としては、姪浜の代表的な「よかとこ」を楽しむことができる4つのお薦め回遊ルートや、暮らしの中の意外な「お宝」発見を楽しめる回遊サブルートを設定した。また、寺社や史跡の他、まちかど遺産や海辺の集客施設、お薦めのお店、受け継がれている祭りなどを表示した。

このマップは、B3 蛇腹折り加工で、折り畳めば B5 サイズで持ち運びしやすいものとした。6,000 部を印刷し、約2年間かけてイベントなどで配布。 概ね好評のマップだったのではないだろうか。



広域回遊マップ

(10) 唐津街道サミット IN 姪浜宿

平成23年3月12日に、唐津街道のまちおこしに取り組む各地域の団体で構成する「唐津街道サミット」を姪浜宿で開催した。第4回目となる今回のテーマは「食」。各地域の特産品を使った唐津街道弁当、食べ歩きスタンプラリー、町歩きイベントにおける食のガイドなどの多彩なアイデアが出された。

また、懇親会では、姪浜の食材(新鮮な魚、白魚、姪浜海苔など)を使った料理や、姪浜の名産品(魚嘉のかまぼこ、仲西商店の削り節、窯蔵のパンなど)を使った料理を提供し、参加した皆さまに大変喜ばれた。これは、肥塚副会長の提案によるもので、こだわりとおもてなしの気持ちを料理に込めたものである。こうした地道な取り組みが、姪浜ブランドの構築につながることを実感した。





唐津街道サミット IN 姪浜宿

実は、このサミット前日の11日の午後2時46分に東日本大震災が発生し、津波が押し寄せる映像が強烈な印象として残っている。福岡にも津波が押し寄せる可能性があり、その影響を受ける団体もあるということで開催するかどうか悩んだが、既に食材を手配していたこともあり、関係者と相談して開催を決断した。筆者は当時、耐震の仕事をしていた頃であり、その日のことは

特に印象に残っている。

(11)「元気!姪浜計画」の策定

まちづくり計画策定ワークショップやアンケート調査などを踏まえ、3月に「元気!姪浜計画」を策定した。これは、地域による、地域のためのまちづくり計画であり、短期、中期、長期ごとに、具体的に何をしていくかの方向性を示したものである。

まちづくり協議会では、地元の人たちにとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人たちにとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多様な「よかとこ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の皆さまとともに進めていきたいと考えている。

「元気!姪浜計画」は、こうした想いを込めて 策定したもので、今後の地域のまちづくりの共 有指針となるものと考えている。



「元気!姪浜計画」

計画の概要であるが、「景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築」を目指し、6つの基本方針と21の具体的な実現化方策を示している。6つの基本方針を示しておこう。

6つの基本方針

①広域回遊ネットワークづくり

回遊ネットワークによって歴史的資源や商店街、公園、海辺、さらには新旧のまちをつないで 姪浜の魅力を増幅させる。

②姪浜のまちの個性の再構築 (住まいづくり・町並み景観づくり)

町家などの地域資源の保全・活用を進めるとともに、培われてきた地域の知恵を活かした住まいづくり・町並みづくりによって姪浜の魅力や活力を再構築する。

③商店街の賑わいづくり

若者の姿のある通りづくりを目ざすとともに、「地産・新鮮・手作り」を活かして地域の人にも 訪れる人にも喜ばれる商店街にしていく。

4 姪浜ブランドづくり

姪浜ならではの「もの」や「ものがたり」を活かした姪浜ブランドを生み出す。

⑤地域を知る場・機会づくり

姪浜の魅力を知る・学ぶ・楽しむ場や機会を設けて地域内外の交流を育てつつ、姪浜の魅力を発信する。

⑥環境にやさしいまちづくり

「身近に海や川がある」「歩いて暮らせる」「地産地消ができる」……このような姪浜を持続し、 向上させるために「環境」の視点を大切にする。

実現化方策③ 町並み景観計画の提案・推進

地域で議論し提案する「町並み景観づくり」

●スタートは「よかとこ探し」から

「町並み」は、住宅などの「建物」や「建物に付属するもの (塀や生け垣、駐車場など)」 さらには、「道路」や「道路に設置してあるもの」の集合体である。それぞれの建物や建 物に付属するものは個人のものであるが、それらが集まった「町並み」はみんなのもので あり、「町並み」を良くしていくためには地域全体で考えていかなければならない。

町並み景観を良くしていくためには、まずは、「今ある良いものを探し、なぜ良いかを 分析すること」から始めることが良いと考える。実現化方策②の「良好な住まいや町並み の再発見・再評価」からスタートしたい。





協議会主催の町並みウオッチング、町並み調査

●地域の目・よそ者の目・若者の目を合わせた「町並み景観計画」の提案

平成22年度には協議会が主催して3回にわたって「まちづくりと地域活性化ワークシ ョップ」を行った。この場には、地域内外の方たちや九州大学の学生の方たちにも参加し ていただき、「地域の目」と「よそ者の目」、「若者の目」で姪浜の将来像について議論し た。協議会ではこのような場を今後も継続的に開いて、姪浜の「よかとこ」を伸ばしなが ら町並みのあるべき姿の実現につなぐ「町並み景観計画」を立案し、地域に広めていきた





九大生も参加した第2回「まちづくりと地域活性化ワークショップ」(平成23年12月5日)

●姪浜ならではの「もの」や「ものがたり」を活かした姪浜ブランドを生み出す。 実現化方策① 今ある名産品や優良な店舗の「姪浜ブランド」認定

唐津街道沿いや旧魚町通りにはすでに名産品といえる商品を販売している店舗があり、 このような商品や店舗を「姪浜プランド」や「姪浜プランドの店」として協議会が認定し、 広く世の中にアピールしていく活動を進めて行きたい。具体的には認定シールや看板など を協議会がデザインして制作し、商店に贈ることを検討する。

●ブランド候補の名店、名産品の例









●認定シールや看板のデザイン案

・商品のパッケージや包み紙に貼ることができる「協議会認定・姪浜ブランド」のシール ・店頭に下げるような「協議会認定・姪浜ブランド店」の看板または暖簾





「元気!姪浜計画」の内容の一部

また、計画の概要を地域の方々に広報するため、3月26日に建築家の鮎川透氏と地域デザイナ 一の高山美佳氏を招いて、みそ蔵で「町並み形成と地域ブランドづくり」というテーマで講演会 を開催した。協議会から「元気!姪浜計画」の説明をした後、鮎川氏からは小値賀島での取り組 み、高山氏からは筑後での取り組みを紹介していただき、「元気!姪浜計画の実践に向けて」意見 交換を行った。

この講演会をきっかけに「姪浜ブランドの構築」に向けて、具体的な実践に動き出すことにな った。また、平成23年度に入ると、協議会の中に「女性部会はまこみち」が発足するが、この講 演会で「まちづくりは女性の視点も大切」という高山氏の発言に刺激を受けた女性の発意による ものであった。





講演会

平成22年度の振り返り

平成22年度は、この他、「みそ蔵コンサート」を2回(9月20日、10月23日)、「ガイドツアー」を1回(3月26日)を開催し、協議会のイベントとして定着させていった。10月2日に予定していた「灯明コンサートIN小戸大神宮」は当日まで準備をしていたが、残念ながら雨天中止となった。肥塚副会長には、手作りのステージまで作っていただいたが、そのお披露は平成23年度に持ち越しとなった。小戸大神宮でのコンサートは、参加者の開場へのアクセス、集客、コンサート空間の仕切り方などの課題を残しており、未だに実現していない。夜間の灯明コンサートではなく、福岡市内でも有数の夕日スポットという特徴を活かして、サンセットコンサートを検討した方がいいかも知れない。





みそ蔵コンサート



春のガイドツアー

振り返ってみると、協議会の事業量も年々増えていき、平成22年度も多くの事業を実施してきた。各種イベントに加え、まちづくり計画の策定、先進都市調査、他団体との連携事業など多彩な事業を運営していく事務局長の業務量は半端ではなかった。



雨天中止となった小戸大神宮での灯明コンサート

14 平成 23 年度の活動

(1) 女性部会「はまこみち」発足

4月には、女性部会「はまこみち」が発足した。女性部会は、3月のまちづくり講演会の講師である高山美佳氏(地域デザイナー)の「地域の活性化は、女性の口コミで大きく変化していく」という言葉に感銘を受け、女性4人で立ち上げたものである。平成23年度は、「演劇ワークショップ」「みそ蔵コンサート(津軽三味線コンサート)」「開運メイク講座」「髪結い講座」「はまこみちカフェ」「姪浜漁協の協力による魚料理教室」「秋のコンサート IN 姪浜住吉神社(津軽三味線コンサート)」などの女性ならではの視点を活かした地道な活動を精力的に展開してきた。

しかし、男性と比べ定例会などに出席できる時間帯が限られていることや、会員相互のコミュニケーション不足などにより、女性部会としては2年ほどで解散し、新たな組織「姪浜商店街の女将さんを応援する会あこめっこ」を立ち上げることになる。人間関係の難しさを改めて感じることになった。



はまこみちカフェ



秋のコンサート IN 姪浜住吉神社

(2)「姪浜ブランド」の認定

唐津街道沿いや旧魚町通りにはすでに名産品といえる商品を販売しているお店や、地元で獲れる新鮮な魚を使った料理を提供している老舗のお店がある。このような商品やお店を「姪浜ブランド」や「姪浜ブランドの店」として協議会が独自に認定し、広く地域内外にアピールしていく活動を平成23年度から始めた。

その第一弾として、8月に「姪浜ブランドの認定」を行った。今回認定させていただいたのは、「魚嘉(かまぼこ)」「仲西商店(削り節)」「マイヅル味噌」「パンの店・窯蔵」の地元で作って売る4つのお店、そして「御園」「旬やみなくち」「鰤っ子」「達揮(たつき)」の4つの料理店である。これらのお店には、協議会がデザインした認定プレートを贈呈し、地域内外に「姪浜ブランド」として発信していくことになった。その後、地元で作って売るお店として「味鶴堂(饅頭)」「糸山鮮魚店」「緒方畳店」「倉谷泉堂(表具・襖店)」、飲食店として「大衆割烹ふる庄」「あこめの浜」を認定した(合計 14 店)。

認定に当たっての明確な基準はないが、「味」「老舗」「伝統」「店の構え」という視点で総合的に判断して認定した。大半の人が「そうだろうな」というお店ばかりである。なお、認定プレートは肥塚副会長の地域への想いのこもった手作りのプレートである。工作と書道の得意な肥塚さんがいたからこそできた事業である。各店舗のオーナーが喜んだのは言うまでもない。これこそ

「This is Meinohama」プロジェクトである。





「姪浜ブランド」の認定

(3) 灯明コンサート IN 姪浜住吉神社

平成 21 年度から始めた灯明コンサートであるが、22 年度に小戸大神宮で予定していたコンサートは雨天中止となった。小戸大神宮は参加者のアクセスやコンサート空間の仕切り方などの課題もあり、今回は姪浜住吉神社で実施することとした(9月 10 日)。演奏者は、昨年も依頼していたチェロの于波(ウ・ハ)さん、ピアノの葉山由美さんである。第1回みそ蔵コンサートで演奏していただいたメンバーである。

設営時の課題は、ステージの設置方法であったが、前の年に小戸大神宮用に準備していたステージを使うことになった。肥塚さんの発案で、いろいろな場所で使えるようになっているものである。高さも広さもある程度は対応できる。もちろん、みそ蔵でのイベントにも対応できる。今回がそのお披露目でもあった。ステージの場所は、樹齢 700 年のイチョウの神木の下であり、最もふさわしい場所である



ステージの設営を終えて

天候も少し心配ではあった。雨は降らなかったが、湿度が高く、チェロの演奏には少し影響があると于波さんが話していた。屋外でのイベントは、天候の心配が付きものであるが、幻想的な雰囲気の中でのコンサートを通じて、姪浜の魅力を伝えていくことが目的であるので、場所にこだわることはとても重要である。

午後7時15分頃から演奏をスタート。「愛の讃歌」「白鳥」「フラメンコ」「愛情物語」「リベルタンゴ」などの曲を演奏していただいた。チェロ、ピアノの音色が奈良時代からの歴史のある姪浜住吉神社の境内に優しく響き渡った。400個の灯明もより幻想的となる。この会場での平成19年のシンポジウムを思い出す。平成21年の興徳寺でのコンサートとは雰囲気は異なるが、姪浜にふさわしいコンサートとなった。





灯明コンサート IN 姪浜住吉神社

(4) 唐津街道物産展

平成22年10月の「勝鷹夢まつり」での唐津街道のコーナーが好評だったことを受け、今回は西新プラリバで赤間、姪浜、前原、唐津の4つの宿場町が参加し、毎週末に持ち回りで出店したものである。姪浜宿からは9月24日と25日に、魚嘉さん(蒲鉾)、仲西商店さん(削り節)、マイヅル味噌さん(もろみ味噌)、窯蔵さん(みそメロンパン)の4つの姪浜ブランド店が出店し、それぞれの商品を販売した。両日とも大好評で、特にみそメロンパンの売れ行きがよかった。

協議会は、魚嘉さん、仲西商店さん、マイヅル味噌さんの商品を買い取って販売し、姪浜ブランドの魅力を PR した。また、姪浜の魅力を PR するパネルを展示するとともに、歴史散策マップやかわら版、10月のイベントのちらしを配布した。各店からも販売に来ていただき、お店の宣伝だけでなく、姪浜の PR もしていただいた。

両日とも朝早くからの会場の設営、販売、姪浜のPR、撤収など、限られた人数の対応で大変であったが、姪浜ブランド店との信頼関係を強くした催しであった。こうした積み重ねが、人と人との絆を構築していくのである。後日、筆者の知り合いから「大塚さん、プラリバで蒲鉾を売っていましたね」と言われたが、仕事だけではない筆者の意外な側面を見てもらって嬉しかった。





唐津街道物産展 IN 西新プラリバ

(5)景観歴史発掘ガイドツアー

平成 23 年度のガイドツアーでは、昼食時間を挟み、午前 10 時~午後 3 時までのロングコース を試みた。従来の午前中だけのコース設定だと、案内できる場所が限られているため、時間を長 くし、案内する範囲も広げた。各地でいろいろなイベントが行われる秋のガイドツアー(10月22日)には35名が参加、桜の名所巡りを打ち出した春のガイドツアー(3月31日)には70名が参加した。

また、春のガイドツアーでは、参加者に姪浜の魅力を知っていただくため、昼食時間にクイズを実施した。これは肥塚副会長の提案によるものである。クイズの内容は「A 歴史と文化遺産の宝庫!姪浜」に関するものとして「唐津街道」「亀井南冥」「元寇防塁」など5問、また「B 姪浜で水揚げされる水産物」として「ヒイラギ」「おきゅうと」「シロウオ」など5問、合わせて 10 間であった。西区以外の参加者が多かったが、姪浜のことを知らない方も多く、大いに楽しんでいただいた。このような参加者が楽しめる催しをもっと増やしていきたいと思った次第である。





春のガイドツアー

元 気 ! 蛭 浜 学(解答)

唐津街道姪浜まちづくり協議会 H940331

[A]歴史と文化遺産の宝庫! 姪浜

質問番号	正解	説 明
問1	1	1:北九州市〜唐津 120km の道。13 の宿場の一つが軽浜宿
問2	2	1: 亀井 昭陽(かめい しょうよう)南冥の長子、江戸後期の儒学者。1773~1836 2: 亀井 南宮(かが) なんが)江戸徳期の儒学者・岳岳・福岡藩校の牧授、1743~1814 3: 亀井 勝一郎(かめい かついちろう)函館生まれ、文芸評論家。1907~1966
問3	3	1:モンケ・モンゴル帝国の第4代皇帝。ジンギスカンの末子トゥルイの子 2:ジンギスカン・・・モンゴル帝国の創設者。元の太祖。名はテムジン。モンゴル族を統一 3:7ピライ元帝国の創代皇帝。モンゴル帝国第5代の皇帝
問4	2	2:かっぱの伝説河童祭417/12~13(住吉神社)
問5	3	3:豊臣秀吉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【B】怪浜で水揚げされる水産物

質問番号	正解	説 明
問6	3	3:シャコの変卵期は初春から初夏
問7	2	2・トンマをたけっという。 1及び3は同山県他の呼び方
問8	3	3:アジの名前の由来は食べて味が良かったので、「アジ」と名がついた。
問9	2	1: このタコは『船ダコ』と言い、アオイガイ科のタコ 2: 「イイダコ」 3: このタコは『柳ダコ』と言い、北海道や東日本で消費されている。マダコ科のタコ
間 10	1	1: 車工ビの海像は1年半から2年半と見られる。 車工ビの産卵期はか~9月で、メス・匹で 100万億の受精卵を海中に放出し、プランク ンとして浮連生活を送りながら、中日ほどで野化する。野化から数日で体が変化し、脱却 を繰り返しながら権工ビとなり、10ヶ月余りで出荷できるサイズになると置われている。

参加者に姪浜の魅力を知ってもらうため、 クイズも採用

(6) 景観づくり委員会、景観づくり計画 STEP 1 の策定

前述のとおり、協議会では平成23年3月に姪浜地域の今後のまちづくりの基本方針及び実現化方策を示す『元気!姪浜計画~景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築に向けて~』を策定した。この中の主要な基本方針のひとつである「姪浜のまちの個性の再構築(住まいづくり・町並み景観づくり)」の実現に向けて、10月に地元関係者、関係団体、九大生、専門家、行政職員など25名で構成する「唐津街道姪浜景観づくり委員会」を立ち上げ、景観づくり計画の検討を進めていった。

具体的には、秋の様々な行事が終了した平成 23 年 10 月後半から 24 年 3 月にかけて、ワークショップ形式により 5 回の委員会を行い、委員の皆さま方から町並み形成や地域活性化に向けた 多彩なアイデアをいただきながら検討を重ねた。





景観づくり委員会

景観づくり委員会での検討内容

- ①姪浜ならではの景観まちづくり資源は何か(まちの個性をつくっているものは何か)
- ②まちの個性が失われつつある要因は何か
- ③まちの個性を再構築するためには何が必要なのか(何を残し、何を創造していくのか)
- ④重点的に景観形成を図っていく区域はどこか(景観づくり重点区域の設定)
- ⑤景観づくり重点区域の景観形成の考え方
- ⑥景観まちづくり手法の検討(景観形成地区の指定、景観重要建造物の指定など)
- ⑦景観まちづくりにあたっての地域と行政の役割分担

また、唐津街道に沿って唐人町~今川~西新~藤崎を歩き、景観事例調査を行った。身近な事 例の中に、姪浜の町並み形成の参考になりそうなちょっとした工夫をたくさん発見することがで きた。テーマを持ってまちを歩くことが、いかに面白く、そして重要であるかということを改め て認識したところである。これと並行して、住民の皆さまに町並みへ関心をもっていただくため、 九大生の協力を得ながらビジュアルな町並み模型も制作した。



景観事例調査



町並み模型制作

景観づくり委員会では、町並みへの「関心」や町並み改善への「意識・意欲」を育てることか

ら始めて、個性再構築の実現へと歩みを進めていくことが良いと考え、まずは景観づくり計画のステップ1として「景観づくりの考え方」と「景観よかとこ事例集」の作成を行った。これは、姪浜の町並みの個性を再構築していくためには、まずは住民の皆さまに町並みへの関心を持っていただくことが必要であるからである。この中で景観づくりの方向性とテーマを次のように設定した。

景観づくりの方向性

<まちの将来像・目標>

- ●誇りの持てるまち・心が豊かになるまちにしたい!
- ●人が住みやすいまち・きれいなまち・ゴミのないまちにしたい!
- ●生活や文化と一体となった景観づくりを!
- ●商店街をコミュニティの核にしたい!
- ●姪浜の宝を地域と行政の協力で福岡市の財産に!

<まちづくり・景観づくりのアイデア>

- ●地域の宝(町家・町並み・寺社・樹木など)を残す・活かす・まちの魅力アップにつなげる。
- ●町家や空き店舗をまちの魅力づくりに活かしながら商店街の活性化に役立てる。
- ●街道沿いの集合住宅も町並みの魅力づくりに貢献できるような景観づくりの工夫をする。
- ●商店街や神社をコミュニティ交流の核にする。(コミュニティの「ひだまり」づくり)
- ●魚や海に関する資源(港、水辺、魚市場、朝市など)を地域交流空間として活かす。

景観づくりのテーマ

地域の宝を再発見し、町並みの魅力アップに活かす景観づくり

今後は、ステップ2の「景観づくり手引き集」の作成を経て、ステップ3の「景観ルールのたたき台づくり」へと取り組みを進めていくこととしている。また、協議会ではブロック塀の板塀化など、町並み改修の実験を行って、その成果を「手引き集」や「景観ルールのたたき台」に反映させる計画である(STEP1作成当時の考え方)。

景観づくり計画 STEP 1~3の位置付け

<ステップ1~「景観づくりの考え方」と「景観よかとこ事例集」の作成~>

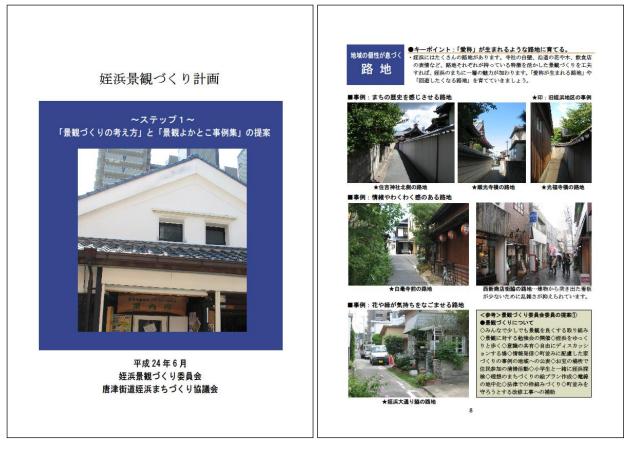
- ・景観づくりを進めていくための基本的な考え方(目標やテーマ)を設定した。
- ・町並みの向上・個性再構築のための方法を知る・学ぶことを目的として、姪浜や他の地域 の町並みの「よかとこ」を集めて事例集を作成した。

<ステップ2~「景観づくり手引き集」の作成~>

・「事例集」をベースに、住民の方たちや姪浜に関心を持っておられる方たちの意見やアイデアを重ね、町並みの向上・個性再構築のための「手引き集」をつくる予定である。

<ステップ3~「景観ルールのたたき台」づくり~>

・「景観づくり」を実効性のあるものにするためには将来は「ルール化」することを考える必要がある。ステップ3では「手引き集」をもとに、住民参加で「ルール化」について議論するためのたたき台をつくる予定である。



景観づくり計画 STEP1

(7) 九州大学都市・建築ワークショップ

これは、九州大学建築学科3年生を対象にしたワークショップである(12月9日)。「今の学生は社会との接点が少なく、何でもできると思い込んでいる」ということで、新旧の二つの地域に出かけ、実際にまちづくり団体や事業者がどのような取り組みをしているのかを学ぶため、企画したとのことである。平成23年度は、新しい地域として東区のアイランドシティ、古い地域として姪浜をフィールドワークの場として選定したとのことである。

姪浜での進め方としては、マイヅル味噌のみそ蔵で、筆者が 30 分ほど姪浜の歴史や魅力、まちづくり協議会の活動を説明した後、意見交換を行った。その後、まちに出て、姪浜住吉神社や商店街、路地などを案内。参加した学生には姪浜の魅力や協議会の活動内容だけでなく、会員がどういう想いで活動しているのか、どのような工夫をしているのかなども知っていただいたことと思う。筆者も学生の新鮮な意見を聴きながら、まち歩きを楽しんだ。

こうしたフィールドワークの体験を通じて、一人でも多くの学生に姪浜というまちに関心を持っていただけたらと思う。そして、社会人になってからも、それぞれの地域のまちづくりのために尽力している人々がいることを認識していただくとともに、今後の仕事に活かしてほしいと思う。

筆者が協議会在籍中は、姪浜では平成 24 年度を除き、毎年開催されており、毎回 30~40 人の 学生が参加した。





九州大学都市・建築ワークショップ

(8)「ふくおか地域づくり活動賞奨励賞」受賞

当協議会では、「ふくおか地域づくり活動賞」を平成21年度と22年度に2年連続で受賞していたが、今回は奨励賞ということで大賞に続く賞(第二席)の受賞となった(2月11日)。今までの地域に根ざした多彩なまちづくり活動が評価されたものであり、嬉しく思う。今回の表彰式は、筆者のふるさと・行橋市で開催されるということで、筆者が受賞の挨拶をすることになった。協議会の活動を開始して、ちょうど5年になる頃の筆者の姪浜へのまちづくりへの想いを伝えた。挨拶文を添付しておこう。筆者の父の墓も会場のすぐ隣にあり、休憩時間に早速受賞の報告を行った。父は筆者の活動をどのように思ってくれているのだろうか。





表彰状

受賞の挨拶をする筆者

受賞挨拶

(前略)

さて、この度は、「ふくおか地域づくり活動賞」の奨励賞をいただき誠にありがとうございます。 当協議会は平成19年3月に設立し、来月でまる5年になります。設立のきっかけは、7年前の福 岡県西方沖地震で多くの町家が被害を受けたこと、そして都市化の進展などもあり、伝統的な町家が次第に少なくなり、マンションや駐車場になったりしているということで、なんとか古い町家や数多くの寺社などの歴史的な環境を活かしたまちづくりを進めていきたいということで立ち上げました。

協議会設立からの一環したテーマは、「地域の魅力の再認識と地域内外への発信」ということです。地域にずっと住んでいると、地域の魅力を失いがちです。例えば、古い町家があっても、地域の方は「こんな古い家のどこがいいのですか」と言います。そこに自分たちみたいなヨソモンが「こんな古い町家や寺社がたくさんある地域は福岡市内にはないですよ。こうした歴史的な資源を活かしたまちづくりを進めていきましょう。」ということで、いわゆるヨソモンが中心になって立ち上げました。

具体的な活動内容ですが、お手元にかわら版をお配りしていますが、イベントとしては「寺社や町家、路地、お薦めのお店などを巡る景観歴史発掘ガイドツアー」「登録有形文化財であるマイヅル味噌の建物でのみそ蔵コンサート」「歴史あるお寺や神社での灯明コンサート」「唐津街道や町家をテーマにした展示会」などがあります。

また、広報活動としては「まち歩きマップ」や「かわら版」を発行しています。

最近では、地域のまちづくりをどのように進めていくのかということで、まちづくりや景観づくりの検討を行っています。平成 23 年2月には今後の地域のまちづくりのガイドラインとなる「元気!姪浜計画」を策定し、現在は「景観まちづくり計画」の策定に取り組んでいます。

また、具体的に目に見える形でまちづくりの効果を伝えていきたいということで、「旧町名表示板の設置」や「姪浜ブランド認定事業」、「町家の改修相談」なども行っています。

こうした多彩な事業を継続的に、かつ、毎年ステップアップしながら進めていけるのは、当協議会の会員構成にあると思います。当協議会は、自分を含めたヨソモン、そして生粋の地元の方で熱心に活動をするバカモン、さらには新風を吹き込むワカモンで構成されているのが特徴です。いわゆる「ヨソモン、バカモン、ワカモン」によるまちづくりを進めています。

また、当協議会はいろいろな職種の会員で構成され、各会員はそれぞれ特技を持っています。例えば、地方史研究家、書道家、写真家、建築士、まちづくりコンサルタントなど、それぞれの得意分野を活かして活動を展開しています。また、「頭」「体」「お金」のいずれかを提供してもらっています。頭は面白い企画を提供してくれること、体は時間を惜しまず活動してくれること、お金は資金面での協力です。このように多様な人材の存在と、それぞれができる範囲で楽しくまちづくりに関わっていくことが、長く、根気よくまちづくりを進めていく上で重要ではないかと考えています。

最後になりますが、こうした活動をしながらも、先日、古い町家が1軒なくなり、悲しい思いをしました。まちづくりは「1歩前進、2歩後退」の繰り返しだとつくづく感じたところでございます。「1歩前進、2歩後退」の繰り返しでは、まちはよくなりませんが、今回の表彰を励みとして、今後も、「1歩前進、1歩後退」「1歩後退、2歩前進」を繰り返しながら、長期的な目標を持って、さらに活動をステップアップさせていきたいと考えています。

また、機会がございましたら、京築地方の皆さまとも郷土のために地域づくりができればと考えています。本日はどうもありがとうございました。

.....

平成 23 年度の振り返り

平成23年度は、この他、かわら版を2回発行(10月1日、3月31日)、「みそ蔵コンサート」を2回(6月25日、10月22日)、「みそ蔵舞踏会(インド舞踊)」を1回(11月12日)開催するなど多くの事業を実施してきた。筆者は事務局長としてイベントの他に、景観づくり計画の策定、姪浜ブランド認定など多彩な事業を企画・実践するなど、筆者の業務量も年々増えていった。当時は耐震関係の仕事も担当しており、東日本大震災直後ということもあり、公私とも忙しい時期であった。



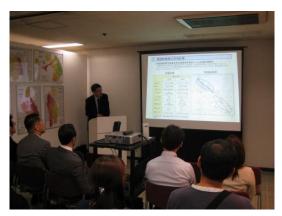


みそ蔵舞踏会



宗像赤間宿からの視察対応。姪浜だけでなく、 御供所の取り組みも紹介できるのも筆者の強み

かわら版第3号



耐震の出前講座

15 平成 24 年度の活動

(1)協議会設立5周年記念イベント「唐津街道姪浜ウィーク」

平成 24 年度の最初の事業として、5月 26 日から6月2日にかけて『唐津街道姪浜ウィーク』を開催した。内容としては、姪浜に関する絵画や写真等を展示した「ディスカバー姪浜展」、姪浜がロケの現場となった高倉健さん主演の映画 "網走番外地~悪への挑戦~"の上映会「姪浜シネマ」、姪浜出身の松坂奏輔氏の演奏による「5周年記念コンサート」、姪浜の魅力スポットを巡る「景観歴史発掘ガイドツアー」などである。

今までは、年度当初の事業は少なかったが、5周年記念事業ということで、初夏の時期に実施した。準備も大変であり、半年前の平成23年11月の定例会で事業の概要を協議し、12月の定例会で企画を確定、2月から広報を始めた。

ディスカバー姪浜展や姪浜シネマでは、昔の懐かしい写真や風景、生活道具に涙を浮かべながら鑑賞されている方もいた。今回は、普段なかなか入ることのできない築 180 年のマイヅル味噌のみそ蔵や築 80 年の宮の前公会堂でのイベントということもあり、一週間の間に約 600 名の方にご来場いただき、姪浜の多彩な魅力を改めて知っていただけたのではないかと思う。



ディスカバー姪浜展



5周年記念コンサート



姪浜シネマ



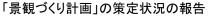
景観歴史発掘ガイドツアー

(2)協議会設立5周年記念交流会

これは、協議会設立5周年記念イベント「唐津街道姪浜ウィーク」の一環として、日頃から当協議会の活動にご支援・ご協力いただいている方々をお招きして実施したものである(6月3日)。 内容としては、「景観づくり計画」の策定状況の報告、「姪浜町家」に認定させていただいた町家 所有者への認定プレートの贈呈式、地元出身のドラマー・榊孝仁氏によるミニコンサートに引き 続き、姪浜ブランド認定店による料理や食材を使った懇親会を行い、交流を深めた。姪浜の多彩 な食の魅力も改めて感じていただけたことと思う。

交流会は単なる懇親会ではない。景観づくり計画の報告や姪浜町家認定プレート贈呈式を組み込むことで、地域の方々に協議会の活動状況を伝えることができ、また、姪浜出身の榊孝仁氏に演奏していただくことで、地域としての一体感も演出することができた。







ミニコンサート

その中でも、今回特にこだわったのは、料理や食材である。平成23年3月に姪浜で実施した「唐津街道サミット」の時の料理や食材が大好評だったことを受け、今回も姪浜ならではの料理でおもてなしをすることとした。7つの姪浜ブランド店(たつき、御園、鰤っ子、魚嘉、仲西商店、マイヅル味噌、窯蔵)のご協力をいただき、参加者に提供させていただいた。手間暇はかかり、スタッフは大変であったが、まちづくりにはこうしたこだわりが大切である。中心になって企画・実践していただいたのは肥塚副会長である。姪浜への想いが強い肥塚さんならではの企画であり、こうした会員の存在が地域内外への発信力につながっていった。





姪浜ブランド店の協力による交流会

(3)「姪浜町家」の認定

6月3日、地域の貴重な財産として、地域の町並み形成に寄与している町家 11 軒を「姪浜町家」 として認定させていただいた。 姪浜には、江戸時代から昭和初期にかけて建てられた約 100 軒の 町家が残っているが、老朽化や後継者不足などの理由で取り壊される家が増えている中で、当協 議会が独自に「姪浜町家」に認定することで、価値を再認識していただくきっかけになればと考え、こうした取り組みを始めた。選定にあたっては、当協議会のメンバーが平成 23 年秋から現地調査や所有者へのヒアリングを行い、保存状態や町並みへの貢献度等を総合的に判断し、まずは11 軒の町家を認定した。認定した町家の所有者には、当協議会から手作りの認定プレートを贈呈させていただいた。

姪浜ブランド認定プレートと同様に町家認定プレートを作っていただいたのは、肥塚副会長である。肥塚さんは工作も書道も得意であり、何よりも心を込めて活動される方である。肥塚さんがいたからこそ、協議会オリジナルの取り組みとして実践することができた。









姪浜町家の認定

(4) 灯明コンサート IN 興徳寺

興徳寺での灯明コンサートは平成 21 年度に続き今回が 2 回目である (10 月 6 日)。ご住職からは「3年に1回」と言われており、それに沿った形で実施することになった。今回はオカリナ&ケーナの和田名保子さんとピアノの佐藤金之助さん。午後 6 時 45 分頃から演奏をスタート。「コンドルは飛んで行く」「荒城の月」「十五夜お月さん」「月までとどけ」「夢海道」「夜行杯」などの曲を演奏していただいた。オカリナ、ケーナ、ピアノの音色が 750 年の歴史のある古刹・興徳寺の境内に優しく響き渡り、400 個の灯明が幻想的な雰囲気を演出した。感動的で至福な時間であった。大きなクスノキの下でのコンサートは、姪浜ならではの企画であり、会場を快く提供していただいた興徳寺さんに改めて感謝申し上げたい。





灯明コンサート IN 興徳寺

(5) 唐津街道を知る一週間

これは、5月~6月にかけて実施した「唐津街道姪浜ウィーク」の秋バージョンとして、11月 10 日~17 日に実施したものである。内容は『唐津街道』をテーマにしたもので、具体的には寺社・町家町並み・おもしろ路地・お薦めのお店などを巡る「まち歩きガイドツアー」、ドラムとピアノの演奏による「みそ蔵コンサート」、歴史研究家による「唐津街道に関する講演会」、女性部会による「着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き」、そして版画家・二川秀臣氏の作品を展示する「版画で歩く唐津街道展」である。



唐津街道に関する講演会



版画で歩く唐津街道展







着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き

この中で今回初めて取り組んだのが、参加者に着物を着ていただいてのまち歩きである。みそ 蔵での着物のワンポイント講座、ミニファッションショー、町並み散策、寺社での撮影会、レト ロなお店での昼食会、お寺での点茶を行った。準備は大変だったが、女性部会が中心となり成功 裏に終了することができた。

これも6月の唐津街道姪浜ウィークが終了後に準備に入り、7月の定例会で事業の概要を協議し、8月の定例会で企画を確定、9月から広報を始めた。企画や各種調整、準備、広報は大変であるが、筆者は常に全体の動きを頭に入れながら、迅速かつ丁寧に取り組んだ。秋はいろいろな地域でイベントがあり集客は大変であるが、多くの方に参加いただき、姪浜の魅力を発信することができた。

(6) 全国町並みゼミ福岡大会

11月30日から12月2日に「全国町並みゼミ福岡大会」が行われ、期間中、姪浜でも分科会が開催された。筆者も実行委員会のメンバーとして企画段階から参加し、主に姪浜分科会の企画や調整業務に主体的に携わった。分科会会場の確保やまち歩きコースの設定、交流会の企画など実行委員会と協議会の調整が大変であったが、できる限りの対応をさせていただいた。

前にも述べたが、筆者は鴻池組時代から伝統的町並みに興味を持ち、歴史的町並み保存の実務的な手引書である「歴史的町並み事典(西山卯三氏監修)」を購入したのもこの時である。今までに 100 を超える伝統的建造物群保存地区のうち、2/3 程度は見学に行ったのではないだろうか。

さて、福岡市内で全国町並みゼミが開催されるとは全く考えてもいなかったことであり、どこを案内するのか疑心暗鬼であった。「都市部における町並み保存のあり方」というテーマだとわかり、ようやく納得した次第である。福岡市内だと博多部の御供所周辺や姪浜あたりだろうか。それでも、全国で町並み保存に精力的に取り組んでいる方々が来られた時に、正直に言って、見せる場所があるのかというのが本音であった。しかし、分科会では包み隠さず姪浜の現状と課題をお伝えし、まち歩きでは姪浜ならではのコース設定でおもてなしすることとした。また、交流会では会場と料理にこだわることとし、町並みでは負けても、料理とおもてなしでは負けない企画に取り組んだ。

こんな筆者の考え方を理解し、一番サポートしてくれたのは、肥塚副会長であり、率先して交流会の企画や準備をしていただいた。平成 23 年 3 月の「唐津街道サミット IN 姪浜宿」や平成 24 年 6 月の「協議会設立 5 周年記念交流会」でも、姪浜ブランド料理によるおもてなしをしており、今回の町並みゼミの交流会でもその経験を活かしてもらうことになった。他の 5 つの分科会では飲食店で交流会を開催したが、手作りの料理でおもてなしをしたのは姪浜だけであった。参加した皆さま方にもきっと喜んでいただけたことと思う。

また、分科会とまち歩きの間の昼食は、姪浜の老舗「たつき」に注文していたが、他の2つの分科会からも注文していただいた。当協議会が主催した平成22年の秋のまち歩きの際の「たつき」の弁当が気に入り、注文していただいたとのことであった。小さなことではあるが、筆者の気配りである。

こうして前日まで入念に各種調整と準備を行い、当日は午前の分科会、午後のまち歩き、夕方の交流会と無事に進んでいった。分科会や交流会では活発な意見交換を行い、姪浜の景観づくりの参考にしていきたいと思った。無いものねだりをする必要はなく、姪浜ならではの地域資源を

活かした景観づくりをしていけばいいのである。





分科会







交流会

(7)「景観発見&まちづくり」体験体感ツアーIN 姪浜

これは、福岡県美しいまちづくり協議会の依頼を受けて、当協議会のまちづくり活動についての説明・意見交換とまち歩きを行ったものである(2月2日)。県内から約20名の方々に参加していただき、協議会活動や姪浜の魅力をPRした。ちょうどJ-COMの取材もあり、当日の様子を撮影していただき、協議会活動をPRする絶好の機会となった。





「景観発見&まちづくり」体験体感ツアーIN 姪浜

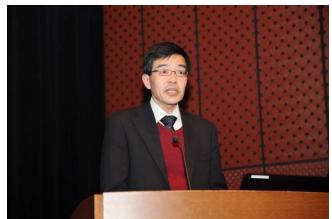
1時間半程度の説明と意見交換の後、姪浜ブランド店「旬や みなくち」での昼食をはさんで、

午後から2時間程度、寺社(興徳寺、光福寺、姪浜住吉神社)や町家(宮の前公会堂、石橋邸、石城戸邸、マイヅル味噌)、路地、お薦めのお店(仲西商店、魚嘉、味鶴堂、窯蔵)などを案内させていただいた。2月2日の開催ということで、まだ肌寒い時期ではあったが、参加した皆さま方に大変喜んでいただいた。いろいろな団体が当協議会を視察や研修先として選んでいただけるようになったことを嬉しく思う。これも粘り強い活動の成果であろう。

(8) 福岡県景観大会での活動 PR

これは、毎年開催されている「福岡県景観大会」において、当協議会の活動を発表する機会に恵まれたものである(3月2日)。前述の「景観発見&まちづくり」体験体感ツアーで受け入れ先となった団体が発表することが恒例になっていた。300 人程度の参加者を収容できるほど広い会場であっが、当日は各種の表彰や講演など様々な行事が組まれている中で、当協議会の発表は最後に近い時間帯であったため、既に退席された方も多かった。少ない参加者の中での活動報告となったが、姪浜のまちづくりへの想いをしっかりと伝えることができた。この経験が全国区レベルの表彰のプレゼンテーションにつながっていくことになった。

また、体験体感ツアー当日の様子をパネルにしていただき、活動の PR をすることができた。 スケッチ展では、姪浜の石橋啓延邸を描かれた方が入賞されていたことも付け加えておこう。活動報告やパネル展示の機会を与えていただいた関係者の皆さま方に感謝申し上げたい。一つひとつの地道な活動が姪浜の魅力を発信しているのである。





プレゼンテーションをする筆者

パネル展による活動の PR

(9) 春の町家コンサート

コンサートについては、これまでマイヅル味噌のみそ蔵や寺社で実施してきたが、もっと身近な場所でできないかと考え、町家で企画したものである(3月30日)。候補としては、まち歩きで案内させていただいている森住邸や石橋邸もあったが、まずは音楽を聴いて、美味しい料理を味わえる場所として御園(みその)で企画することになった。演奏は姪浜出身・在住のいわつなおこ氏に依頼した。1時間にわたるアコーディオンの演奏が室内に心地良く響き渡った。「ミュゼットの女王」「街角」「ブルータンゴ」「群衆」「パリのいたずらっ子」などの軽快な音楽が古い町家にもよく似合った。定員いっぱいの30名の参加者も大変満足した様子だった。

演奏後は御園の美味しい料理とお酒で盛り上がった。いわつ氏にも会食の最中に改めて演奏し

ていただいた。至福の時間である。これこそが、姪浜ならではの空間であり、時間である。姪浜でしかできないことを追及していくことが、姪浜流のまちづくりであり、筆者の信念である。こうして平成 24 年度も多くの成果を残して、締めくくることとなった。





春の町家コンサート

(10) 歴史散策と桜の名所巡り

春のガイドツアー「歴史散策と桜の名所巡り」は、 平成24年度事業として平成25年4月6日に予定していたが、強風と雨の予報があり中止となった。約60名の市民から参加の申込みをいただいており、一人ひとり丁寧にお断りの電話をさせていただいたことが、今でも記憶に新しい。ガイドツアーが雨天中止になったのは、この時だけである。

また、例年だと桜の見頃の時期が4月上旬であることから今回は4月6日に予定していたが、この年は平年より10日ほど早く3月13日に開花。満開も3月22日であり、4月6日はほとんど葉桜状態であった。天気が良くガイドツアーを実施していても、桜を見れない状況であった。こういうこともあり、以降の春のガイドツアーは3月の最終土曜日で恒例化していった。



雨天中止となった春のガイドツアー

平成 24 年度の振り返り

平成 24 年度は、協議会設立5周年記念イベント「唐津街道姪浜ウィーク」から始まり、「姪 浜町家認定事業」や「灯明コンサート」「唐津街道を知る一週間」「全国町並みゼミ福岡大会」な ど、多くの事業を実施してきた。事業内容も年々進化していった。こうした活動は次第に県外に も知られるようになり、他都市から視察も来られるようになった。今までは、筆者らが先進都市 調査に出かけていたが、他都市からの視察や研修の増加は地道な活動の成果と言えると思う。

16 平成 25 年度の活動

(1) まち歩きワークショップ

平成 25 年度の最初の事業は、4月 27 日の景観づくり計画 STEP 2 の策定に向けたまち歩きワークショップからスタートした。「姪浜のまちの個性の再構築(住まいづくり・町並み景観づくり)」の実現に向け、1 年間かけて景観づくり計画の策定を行っていくに当たり、まずは関係者 10 人でまちを歩き、姪浜の魅力と課題を再確認しようとしたものである。

「唐津街道の入り口を示すサインがあった方が良い」「町並みに合わせて自動販売機の色を変えてもらってはどうか」「お寺の近くにある店舗のテント広告の色が雰囲気に合わない」などの意見を出し合った。また、室町時代に九州を統治する九州探題が置かれていた探題塚付近の丘では、「ここを展望台にしたら辺りを一望できる」といった意見が出され、参加者全員でうなづき合ったものだ。これについては、筆者が活動の企画書を作成しており、「今後の展開方策の提案」の中で紹介したい。

この他、店舗のショーウィンドウの中の展示物が季節ごとに入れ替えられたり、満開の大きなツツジの木に出会うなど、思わぬ発見もあった。みんなで楽しくまちを歩き、新しい発見もあった一日であった。





新しい発見のあったまち歩きワークショップ

(2) 第2回姪浜町家認定式

4月27日、地域の貴重な財産として、地域の町並み形成に寄与している町家 10 軒を新たに「姪浜町家」として認定させていただいた。平成24年6月の11 軒と合わせ計21 軒になった。また、約50年にわたり地域のお魚屋さんとして親しまれている「糸山鮮魚店」さんを「姪浜ブランドのお店」として認定させていただいた。姪浜ブランド認定店はこれで12件になった。認定した町家やお店の所有者には、当協議会から手作りの認定プレートを贈呈させていただいた。

姪浜には残していきたい町家や、姪浜ならではのお店がたくさんあるが、今後も「姪浜ブランドづくり」の一環として、こうした活動を続けていくべきであろう。今回のプレートも肥塚副会長の手作りである。こうした活動が展開できるのも、姪浜への想いの強い肥塚さんがいたからこそである。





肥塚さん手作りの姪浜町家認定プレート

姪浜ブランドの認定

(3) まち歩きマップ改訂

当協議会では、これまで「歴史散策マップ」(平成 20 年 3 月から 15,000 部配布)と「まち歩きマップ」(平成 23 年 1 月から 6,000 部配布)を発行してきたが、今般、これらのマップを合体し、より地域の魅力を PR できる「改訂まち歩きマップ」を発行したものである。

A2 サイズで、まち歩きに便利なジャバラ折加工で 10,000 部作成したものである。片面には地域の歴史や魅力資源(神社仏閣、お祭り、路地など)、そしてそれらを巡る回遊ルートを示している。また、片面には「姪浜ブランド認定店」をはじめとしたお薦めのお店などを紹介している。企画、予算調達、デザイン、印刷など全て当協議会の会員が手作りで作成したものである。4月下旬から配布を開始したが、1年半程で在庫がなくなるなど大好評のマップであった。





改訂まち歩きマップ

(4)感謝状

筆者の個人的なことになるが、4月27日の姪浜町家や姪浜ブランド認定式の中で、協議会から感謝状をいただいた。これは、筆者の今までの精力的な協議会活動に対する感謝の気持ちと、今後も協議会活動を牽引してほしいという趣旨であった。当時は、公務員の不祥事が相次いでいる中で、地域に飛び出し、率先してまちづくり活動を推進している公務員が姪浜にいるということも伝えたかったのであろう。筆者の想いを酌んでいただいた肥塚副会長の発意によるものである。ありがたくいただくとともに、今まで以上に頑張ろうという気持ちでいっぱいであった。これを機会に、筆者のやる気もさらに高まり、全国的な賞を多数受賞していく推進力となっていった。

場所があったなんて」 と、高く評価された活動の 動の大会で日本一になっ ところにこんな味わい深い 居、屋根が崩れ落ちた町家 民団体「唐津街道姪浜まち 歴史や風情漂う街並みにく 姪浜の惨状に胸を痛めた。 の福岡沖地震が地域おこし ではない。2005年3月 局長も務めるが、地元住民 PO「日本都市計画家協会 ぎ付けになった。「身近な …。ニュース映像が伝える 企画を練り、協議会の事務 つくり協議会」が10月、N に住んでいたが、地震の前 に携わる契機になった。 方で、画面の奥に広がる 東京)が主催する地域活 姪浜住吉神社の壊れた鳥 福岡市西区姪浜地区の市 行橋市出身で西区愛宕浜 多彩で地道で着実



「唐津街道姪浜まちづくり協議会」事務局長

大塚 **政徳さん**(55)

> たという思いが、地域おこ 素晴らしさを見落としてい 活動へと駆り立てた。 土日は姪浜を歩き回り、 3月、川岡さんら住民数人 とグループを結成した。 地域おこしで大切にして

したことがあった。足元の 姪浜で10年ほど暮ら 保さん(65)と出会い、07年 の歴史に詳しい住民の川岡 街歩き地図を作った。地元

には、

開いたり。10月の全国大会 町家」として認定したり、 古いみそ蔵でコンサートを 道沿いの古い商家を「姪浜 "よそもん"の視点。旧街

いるのは、住民とは違った

え、最高賞獲得へと導いた。 はぐくむ土台になる」と訴 そ、地域への愛着や誇りを 物語を掘り起こす体験こ では「埋もれている歴史や この春、もっとうれしい

感謝状 大塚政徳 殿 会長 川岡 保 る。

られた感謝状だ。 賞をもらったという。グル めた思いは日々膨らんでい 家で暮らしたい」。胸に秘 第二の故郷以上の場になっ きたから、地域の一員とし 自分はよそもんだと思って 結成から6年、姪浜は今や ープのメンバーから突然贈 て認められた気がした」。 「いつか移り住んで町 「ずっと

(首藤厚之)

H25.11. 18 西日本新聞

NPO 日本都市計画家協会「日本まちづくり大賞」受賞時の西日本新聞の記事(平成 25 年 11 月 18 日)

また、当時の筆者の気持ちを記したエッセイがあるので、合わせて紹介させていただく(再掲)。

震度6弱からの転機 ※筆者が当時書いたエッセイ(再掲)

平成 17 年 3 月の福岡県西方沖地震、それが私の人生の大きな転機となった。姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けた。「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史資源が残っていたのか。まだ、遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最初で最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域の関係者に声をかけ、2 年後にまちづくり協議会を立ち上げた。私が 49 歳の時だ。

それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がなかった。それからは今までの 20 年間を取り戻すかのように、『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただいた。

今はやりの二刀流ではないが、公務員そして地域のまちづくりのリーダーとして、引き続き「私の人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しくまちづくり活動に関わっていきたい。

なお、平成25年8月に、横手市増田地区の内蔵を訪問した時の想いを記したものがある。地域づくりの楽しさを地域の方々に伝えたかったものである(コラム6)。

コラム6 人生は二刀流、二毛作

先日、「内蔵」などの歴史的な町並みで知られる秋田県横手市の増田地区に行ってきました。 同地区は江戸末期〜昭和初期に、宮城県と秋田県を結ぶ交通の要所として発展し、葉タバコや 蚕糸の生産などで商人文化が栄えました。当時の商人たちが、成功の証として母屋の中に蔵を 造ったのが、内蔵の始まりとされています。内蔵を公開している家も多く、私も5軒見せてい ただきましたが、見事な蔵に圧倒されました。年内に国の重要伝統的建造物群保存地区指定が 予定されており、注目される地域になっていくと思われます。

ここも後継者不足という課題がありますが、仕事で増田を離れていた方々が定年を機会に故郷に帰り、家を守っていくという状況のようです。この繰り返しで町並みやコミュニティが継承されていくという考え方は、超高齢社会では十分考えられることです。町並みに関わらず、定年後に地域づくりに関わっていく社会になればいいなと思います。姪浜の皆さま、若者も高齢者も「人生は二刀流、二毛作」の時代ですよ。家庭や仕事だけでなく、地域に飛び出しませんか。地域づくりは楽しいですよ。(平成25年8月30日に秋田県横手市増田地区を訪問して。平成25年9月30日発行の「かわら版第6号」より)





(5) NPO 日本都市計画家協会「日本まちづくり大賞」受賞

NPO 日本都市計画家協会賞は、全国の都市や地域で実践されている様々な分野やテーマの「草の根まちづくり活動」を応援し、優れた理念や活動を全国に発信・波及することを目的に、平成15年(2003年)にスタートしたものである。前回までに80団体が受賞していた。大賞は各賞(優秀まちづくり賞、全国まちづくり会議特別賞、支部賞など)に選考された団体が公開プレゼンテーションを行い、会場参加者による投票を参考にして、最終審査会を経て選ばれることとなっている。

当協議会は、まずは福岡支部賞を受賞し、全国から選ばれた7つの団体とともに、長岡市で開催された「全国まちづくり会議2013 in 長岡」の中で、10月5日に公開プレゼンテーションに臨み、翌6日の最終審査会を経て大賞を受賞したものである。

当協議会のテーマは、『姪浜の宝を福岡市民の宝に!~歴史的な環境を活かした地域協働の町並み形成と地域づくり推進活動~』である。筆者は姪浜ならではのまちづくり資源(歴史、物語、町並み、海、食など)を活かした、これまでの7年間の地道な取り組みを福岡市の代表としてしっかり PR してきた。

当協議会は、一つひとつの活動はオーソドックスながらも、多彩で地道に着実に、そして真摯な姿勢で取り組んでいることが高く評価されたとのことである。また、唐津街道沿いの町並みの外観を向上させようとすることにとどまらず、姪浜のまち全体を視野に入れて、歴史や物語などをはじめとした地域資源を活かして、まちの個性の再構築(エリア・コンバージョン)につなげようとしているのだという評価をいただいた。

今回の受賞は、まちづくりの専門家に評価していただいたものであり、姪浜だけでなく福岡市 にとっても誇りであり、福岡市民に誇れる賞だと考えている。

なお、今回のプレゼンテーションに当たり、建築や都市を学んでいる長男を大宮から長岡に呼 び寄せ、父親(筆者)の頑張っている姿を見せることができた。福岡や姪浜も捨てたものじゃな いと思ってもらったかも知れない。

この活動記録を書いているのが、平成28年10月である。当時大学1年生だった長男も今は大学4年生である。平成25年に建築や都市を学び始めた長男も、この3年で随分と成長したに違いない。月日の経つのは本当に早いものだ。3年前の快挙を改めて思い出したところである。



公開プレゼンテーションで熱弁をふるう筆者



筆者の大賞受賞スピーチ

プレゼンテーションを行った筆者のコメント

各団体に与えられたプレゼン時間は8分。私は7番目にプレゼンすることになりました。先にプレゼンを行った6団体を参考にして、メリハリをつけながら、流れるようなわかりやすい説明を心がけました。福岡を出発する前に市役所の先輩から「歴史的な町並みや建造物が次第に失われつつある 150 万都市・福岡の一地域の地道な取り組みを、自信を持ってアピールして来たらいい」というアドバイスを受け、まさしくそれを実行しました。

「姪浜の地理的位置と歴史」「協議会の活動エリア」「活動のきっかけ」を話した後、「多彩な活動内容」を説明し、最後は「活動の成果」「今後の活動予定」で締めくくりました。自分としても大変納得のいくプレゼンであり、協議会活動や市役所の出前講座などで場数を踏んだ成果が出たと思っています。申請資料は限られた枚数での表現であり、他の団体に比べ、ややアピール力に欠けた感じを持っていましたが、姪浜への熱い想いを込めたプレゼンで逆転といったところでしょうか。

今回の受賞を励みとして、今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に、粘り強く、楽しく、そして次の世代に引き継いでいけるように活動を進めていきたいと考えています。また、今回プレゼンを行った他の7団体も、様々な課題のある地域を何とか元気にしたいと取り組んでおり、今回の出会いをきっかけに交流を始めていきたいと考えています。

(平成 25年 10月 31日発行のかわら版より)



(6) ふくおか共助社会づくり表彰「協働部門賞」受賞

8月31日、福岡県が主催する「ふくおか共助社会づくり表彰」の協働部門賞を受賞した。この賞は新たな共助社会の実現に向け、NPO・ボランティアと企業、その他団体、行政との優れた協働の取り組みを表彰するものである。当協議会は「九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 菊地研究室」との協働による「町並み保全と地域づくり」の取り組みが高く評価されたものである。

当初は、8月31日に表彰式が予定されていたが、台風の影響で10月6日に延期されたものであり、前述の「日本まちづくり大賞」と合わせ、新潟県長岡市と福岡市で同日での嬉しいダブル受賞となった。平成25年10月6日は、当協議会にとって記念すべき一日となった。

活動概要と受賞理由

都市化の進展や平成 17 年 3 月に発生した福岡県西方沖地震により、地域の特徴である町家が次第に減少する中で、「歴史的な環境を活かした景観づくりの推進と姪浜ブランドの構築」を目標に、地域資源の保全・活用に向けた意識醸成とその実践を図る取り組み。

協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルを活用し、地域資源の調査と情報発信、ワークショップの企画運営、まちづくり計画策定、町家再生などの様々な取り組みを行っており、学生が若い視点を活かし、地域資源の調査やまちづくりワークショップの運営に協力。

これらにより、町並みの保存に向けた地域住民の機運醸成が図られたことで、将来的な景観づくり・まちづくりまで見据えた息の長い取り組みとして定着し、さらなる発展が期待される。

ダブル受賞を記念して、かわら版号外を発行したが、その時の筆者のコメント(事務局長通信)を記しておこう。受賞はあくまで通過点である。次に向けての筆者の熱い想いが伝わるであろう。 現状に満足せず、常に前を向いて前向きに取り組む姿勢こそが大事なのである。

コラム7 『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』の実現に向けて

当協議会は、今までに「福岡市都市景観賞」「ふくおか地域づくり活動賞」を受賞しています。 今回、応募のきっかけとなったのは、一部の地域を除き、全国どこに行っても同じような景観 形成が進む中で、一地域の地道な取り組みを通して、それぞれの地域にある歴史や文化、物語 等を掘り起こし、個性ある地域づくりの一助になればという想いからです。

姪浜には、古い町並みが面的に残っているわけではありませんが、歴史、物語、町並み、海、食などの様々な魅力資源があります。町並みだけ見ると、いつの間にか通り過ごしてしまいそうですが、じっくりと歩いて見ると、まさに「宝のまち・姪浜」を実感することができます。こうした身近な資源をしっかり評価し、まちづくりに活かし、後世に引き継いでいくことが重要です。

我々の活動そのものは、全国的にも評価されたということですが、今後は町並みとして目に 見える形で成果を出していかないといけません。そのためには、地域の住民や関係団体の皆さ まの今まで以上の「姪浜への想い」と、それを実現化するための熱意と実行力が不可欠でござ います。どうか、宝の持ち腐れにならないよう『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に、共 に知恵を出し、汗を流していきましょう。(平成25年10月31日発行の「かわら版号外より」)

(7) 唐津街道姪浜ウィーク「とっておきの姪浜!」

10月19日から11月9日にかけて『とっておきの姪浜!』と銘打って、次のような姪浜ならではの多彩な「こだわりとおもてなし」のイベントを実施した。地域内外から多くの皆さま方に参

加していただき、姪浜の魅力を伝えることができた。

今回は、NPO 日本都市計画家協会「日本まちづくり大賞」受賞記念という位置付けも行い、市政記者クラブに投げ込みを行うなど、協議会活動や姪浜の魅力を積極的に PR した。

「とっておきの姪浜!」の内容

- ○住吉神社での幻想的な「灯明コンサート」
- ○マイヅル味噌の閉店前に多くの方々にその歴史と魅力を知っていただきたいと企画した「みそ 蔵特別公開」
- ○姪浜がロケの現場となった高倉健さん主演の映画 "網走番外地~悪への挑戦~"の上映会「み そ蔵シネマ」
- ○地域のイベントとしてすっかり定着した「みそ蔵コンサート」
- ○姪浜の魅力スポットを巡る「景観歴史発掘ガイドツアー」
- ○小学生を対象とした「子どもまちなみ探検隊」



灯明コンサート



みそ蔵特別公開



みそ蔵コンサート

この中で、今回のトピックを紹介する。まずは、関係者の皆さま方のご協力を得て、ガイドツアーのオプションとして初めて姪浜魚市場をコースに組み込んだ。福岡市内に魚市場があるのは、長浜と姪浜だけである。競りの様子を見学していただいたが、新鮮な魚が水揚げされる港町・姪浜の良さを実感していただけたことと思う。

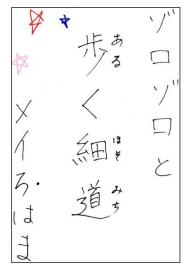
また、子どもまちなみ探検隊も初めての試みであったが、歴史ある寺社、昔ながらの町家、迷

路のような路地、そして蒲鉾や削り節の試食というような姪浜ならではの内容に、参加した子どもたちは興味津々で大満足のようであった。講師の高山美佳氏(協議会アドバイザー)のアイデアで、まち歩き後に俳句を詠んでもらったが、子どもたちの感性の高さに驚かされた。例えば「ゾロゾロと歩く細道メイロはま」「今晩のビールのつまみはカマボコと歴史のかほりビバ姪の浜」などである。次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力を伝えていきたいと改めて思ったところである。

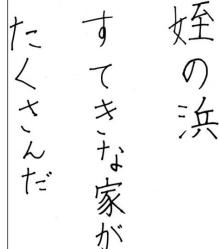


魚市場の競り見学

子どもまちなみ探検隊







まち歩き後に子供たちに詠んでもらった俳句

(8)「あしたのまち・くらしづくり活動賞」受賞

11月30日、「(公財) あしたの日本を創る協会」が主催する「あしたのまち・くらしづくり活動賞」を受賞した。この賞は、全国各地で様々なテーマで地域活動に取り組んでいる団体の中から先進的・先駆的な活動を顕彰するものである。平成25年度は、全国各地から254件の応募があり、36件が受賞、当協議会は振興奨励賞をいただいた。

当協議会のテーマは、10月に受賞した二つの賞と同じ『姪浜の宝を福岡市民の宝に!~歴史的な環境を活かした地域協働の町並み形成と地域づくり推進活動~』で、多彩な地域資源を活かした、これまでの7年間の地道な取り組みが評価されたものである。





表彰式

表彰状

(9)様々な受賞に伴う協議会活動の PR

平成 25 年度に前述の 3 つの賞を受賞したことに伴い、マスコミからの取材も大幅に増えた。特に NPO 日本都市計画家協会「日本まちづくり大賞」の受賞は全国への PR 効果も高く、いろいろな取材を受けることになった。遠方から視察に来られる団体も出てきた。地域の団体や住民の皆さま方からも協議会の活動を評価していただけるようになった。マスコミを通じた地域への情報発信は、地域の皆さま方の地域への誇りや愛着の醸成につながっていった。筆者の描いたシナリオ通りである。

また、各賞受賞に大きく貢献してきた事務局長個人への取材も数社からあり、日頃からの精力的な活動を通じた筆者のまちづくりへの想いを伝えてきた。



マスコミ掲載記事

(10) 地域の皆さま方からの贈り物

前述の三つの栄えある賞をいただき、マスコミに大きく取り上げられたこともあり、地域の皆 さま方から嬉しい贈り物をいただいた。

まずは、姪の浜六丁目在住の方から 12 月に「姪の浜史跡めぐりの歌」を作っていただいた。姪 浜への熱い想いの込もった歌で 37 番まである。

姪の浜史跡めぐりの歌

- 一 博多の駅をあとにして 姪の浜へいざ行かん
- ニ 唐津に向かう筑肥線 相互乗り入れ便利よく 高架のホームの姪の浜 行き交うバスも絶え間なし

地下のトンネル走り行く 空港線の心地よさ

- 三 白魚踊る室見川 河口に貝掘る人もあり 愛宕の山は木々青く 南はかすむ叶ヶ岳
- 四 姪浜駅の北口に 立てば母校の内浜小 我も娘も時超えて 学びて遊ぶ楽しさよ
- 五 渡船場の岸あとにして フェリーに乗れば十分余 春は桜の能古の島 夏は涼しき森の陰
- 六 コスモスの花の咲く頃は アイランドパークで楽しまん 集まる親子も数知れず 夕焼けの空も忘られぬ
- 七 壇一雄の旧宅や 思索の森に展望台 立ちて東を眺めれば 海の中道 志賀の島
- ハ 遠い故郷に妻や子を 残して来たる防人の うたも哀しや万葉に 心を映す波の色
- 九 父は二十で遠泳し 能古の向かいの岸につく 小戸公園と今は呼ぶ 遊ぶ親子の数多し
- 十 神功皇后の凱旋を 今も語るか磯の風 小戸大神宮も祀られて 神代を偲ぶ御膳立

鎌倉武士の昔より 建てる甍は興徳寺 十二 しっくい塗りの白壁や 町家作りの小格子の 奥に三毛猫昼寝して カラス飛んでも目もさめず

十一 袖ヶ浜を後にして 名柄の川に沿い行けば

- 十三 街道に沿う水町に 仰ぐイチョウの天満宮 梅の香かおる境内に 祀るは菅原道真公
- 十五 いかなる縁か室町の 昔に建てる照林寺 その御霊屋の奥深く 菅公の神体祀られて
- 十六 過ぎし昔の吉日に 舞鶴城より移せしと
- 十七 母を亡くして幾年ぞ 彼岸に参る菩提寺の 墓前に香をくゆらせて 祈るは君と子らのため

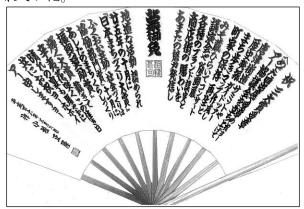
み輿の裏に墨黒く 残せし人は誰ならん

- 十八 九州霊場 法蔵院 春は甘茶の花まつり 秋は歩きの町めぐり 参拝男女四時絶えず
- 十九 銀杏の実の熟すころ 順光寺の横通り 三叉路に立つ庚申塔 ゆかり知る人今いずこ
- 二十 枕の草子の昔より 近くは志ん生の落語まで 庚申待ちの名を留めし 赤きお面は猿田彦



姪の浜史跡めぐりの歌

もう一つは、豊浜二丁目在住で相撲甚句をされている小松正隆様から、相撲甚句を通じて姪浜のまちづくりに協力したいというお話をいただいた。歴史散策マップや現地取材をもとに「姪浜の名所旧跡」及び「三賞受賞」に関する甚句を作っていただき、平成26年3月8日の「三賞受賞記念祝賀会」で披露していただいた。お祝いの席に相応しい歌で、出席された方々も大変感激されていた。





相撲甚句(左)とその披露(右)

こうした地域の方々からの贈り物は、「地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開」につながりつつあると感じた次第である。

(11) 子どもウォークラリー

平成 25 年秋の「子どもまちなみ探検隊」が大好評だったこともあり、2月8日に西日本新聞社「姪浜ビィーキ」と共催で「姪浜の玉手箱~ナゾ解きウォークラリー」を実施した。姪浜には、一年中飾られている注連縄、住吉神社のカッパの像など「これ何?」と疑問に思うようなナゾが多くあるが、今回はこうしたナゾを解き明かしながら、姪浜を探検してゴールを目指すものである。

ナゾを解くとご褒美 (仲西商店の削り節、岡村屋のレモンケーキなど) をもらえるポイントもあり、ゲームのように楽しみながら地域のことを学べる内容であった。また、魚嘉の蒲鉾を使った燻製づくりの体験、そして平成 25 年末で長い歴史に幕を下ろしたマイヅル味噌の味噌を使った豚汁のふるまいもあった。参加した子どもたちも大いに満足した様子であった。保護者の皆さま方にも好評で、今後も協議会のイベントとして定着させていきたいと思ったところである。





子どもウォークラリー

(12) 子ども落書き消し隊

3月1日に景観回遊路に面した光福寺の塀の落書き消しを行った。ここはガイドツアーで毎回 案内するお薦めのコースであるが、落書きが酷く、何とかきれいにさせていただきたいとご住職 に申し入れ、快諾を得て実施したものである。

ここでも子どもたちに参加する場を設け、塗装作業に関わっていただいた。最初は慣れない手つきで緊張していたが、次第にうまく塗れるようになっていった。協議会スタッフも作業に加わり、最後は職人さんにきれいに仕上げていただいた。大人も子どもも一緒になって作業し、絆を深め楽しい一日を過ごすことができたと思う。

こうした活動は、子どもたちがまちの歴史や魅力を知り、楽しみ、その価値を継承していくことや我がまちに誇りを持つことにもつながり、また、まちを訪れる人たちの楽しみも深まると確信したところである。







落書き消しの様子



after



参加者全員で記念撮影

(13) 三賞受賞記念祝賀会

前述のように、当協議会は平成 25 年の秋に、NPO 日本都市計画家協会の「日本まちづくり大賞」、福岡県の「ふくおか共助社会づくり表彰」、(公財) あしたの日本を創る協会の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」の3つの公的な賞を受賞した。これを記念して3月8日、地域への報告会を兼ねて祝賀会を開催し、出席された方々と喜びを共有した。豊浜在住の小松正隆さんをはじめとする玄海相撲甚句会の皆さま方にもお祝いの相撲甚句を披露していただき、御園さんの美味しい魚料理とお酒で大いに盛り上がった。

筆者らは、これらの受賞を励みに、今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』の実現に向けて、 地域の総力を結集してまちづくり活動に取り組んでいく決意をしたところであった。



三賞受賞記念祝賀会

(14) まちなみフォーラム IN 唐津街道姪浜

これは、3月29日に福岡県内で町並みなどの地域遺産の保存継承に取り組む団体「まちなみネ ットワークふくおか」と共同で実施したものである。午前中のまち歩きイベント「歴史散策と桜 の名所巡り」には約50名の皆さまに参加いただき、寺社、町家、路地、姪浜ブランド店などを巡 った。桜の名所である光福寺、万正寺、探題塚の満開の桜に参加者は大いに魅了されていた。

また、午後からは「まちなみ保存継承活動のこれから」というテーマで、福津市津屋崎、飯塚 市内野宿など県内各地で町並みの保存継承に取り組んでいる4地域の取り組みを報告していただ き、これをもとに活発な意見交換を行った。少子高齢化の進行に伴う空家の増加によるコミュニ ティの維持の深刻さや、伝統家屋を修理する技術・技能者の育成などが大きな課題となっている 中で、会場の皆さま方と地域遺産を活かしたまちづくりの方向性や、その戦略と実践方策につい て考えた。姪浜の景観づくりのヒントもたくさんいただき、今後に役立てていきたいと思ったと ころである。



まち歩き

フォーラム

(15) 姪浜町家等の認定

3月29日、地域の貴重な財産として、地域の町並み形成に寄与している町家6軒を新たに「姪 浜町家」として認定させていただいた。また、地域の畳屋さんや表具・襖屋さんとして親しまれ ている「緒方畳店」さんと「倉谷翠泉堂」さんを「姪浜ブランドのお店」として認定させていた だいた。これで認定させていただいた町家は累計26件、ブランド店は14件となった。認定した 町家やお店の所有者には、当協議会から手作りの認定プレートを贈呈させていただいた。今まで と同様、肥塚さんの熱い想いの込められた手作りのプレートである。

姪浜には残していきたい町家や、姪浜ならで はのお店がたくさんある。今後も「姪浜ブラン ドづくり」の一環として、こうした活動を続け ていくべきであろう。



姪浜ブランドの認定

(16) 景観づくり計画 STEP 2 策定

景観づくり委員会は平成 23 年 10 月に活動を開始し、その成果として 24 年 6 月に「景観づくり計画ステップ 1 ~景観づくりの考え方と景観よかとこ事例集~」を策定し、地域への報告会を行った。その後、平成 25 年 3 月に再開し、自治協議会や商店会、姪友会の関係者、町家所有者、九州大学大学院生などに参加していただき、 9 回の委員会と 3 回のまち歩きワークショップを行い、その成果として平成 26 年 3 月末に「景観づくり計画ステップ 2」を策定したものである。







まち歩きワークショップ

景観づくり委員会で整理した「姪浜における景観づくりの課題と取り組みの視点」は次のとおりである。

景観づくりの課題「このままじゃ姪浜らしさがのうなるばい!」

唐津街道を中心とした旧姪浜地域は、多彩な歴史、多くの寺社、古い町家などの魅力資源により福岡市内でも有数の歴史的環境が形成されているが、その魅力が地域内であまり認識されていない。このことは都市化の波によって年々まちの個性が薄らいでいくことの要因にもなっている。

こうした課題に対応するため、当協議会が中心となって、平成 19 年度から景観まちづくりの取り組みを進めているが、歴史的資源や町並みの個性が活かされて、姪浜の宝が福岡市民の宝になっていくのか、あるいは市の中心部に近いゆえに都市化に埋没して地域の個性を失い、一層雑然とした町並み(どこにでもあるような特徴のないまち)へと向かっていくのか、今がまさしく正念場である。

こうした中、当協議会では平成23年2月に今後の姪浜地域のまちづくりの方向性を示した『元気!姪浜計画』を地域に公表した。計画の柱のひとつである「姪浜のまちの個性の再構築(住まいづくり・町並み景観づくり)」の実現に当たっては、地域の皆さま方にいかに関心を持っていただくか、さらには景観向上・個性再構築に向けて地域がいかに協働していくかが大きな課題となっている。

高層マンションにおいても景観形成への配慮が望まれる。

取り組みの視点

姪浜の景観への関心を呼び起こし、地域住民に景観づくりに積極的に関わってもらうためには、次のような視点が必要であると考えている。

- ○地域住民に、いかに街道や路地、寺社、町家、海などの地域資源に目を向けてもらい、その良さを感じ、体験してもらうか。
- ○地域資源の再認識を踏まえて、いかに景観向上・個性再構築の意識を醸成し、地域協働の基盤 を育てるか。
- ○「規制」と捉えられがちな景観づくりを、いかに「個性ある暮らしの環境の継承・創造」に結 びつけるか。

また、当該地域固有の歴史的環境を活かした景観づくりを浸透させ、展開していくため、計画づくりと並行して次のような事業を実施してきた。

景観づくり委員会で取り組んできたこと

〇地域への誇りや愛着を感じてもらうことを目的とした住民参加の景観まちづくり活動

- ①まちや港の資源(寺社・町家・街道・路地等の歴史的環境資源、名柄川・船溜り・魚市場・造船所等の水辺環境資源等)を巡るまち歩きワークショップと景観分析マップなどによる現況景観のまとめ・公表
- ②子ども景観教室(将来を担う子どもたちに地域の景観的魅力をわかりやすく伝え、自分の住む地域に愛着を持ってもらう)
- ③住民参加によるお寺の塀の修景(景観回遊路に面したお寺の塀の落書き消し)

〇地域協働の景観づくり計画の策定

- ①地域主体の「景観づくり委員会」による景観づくり計画の検討・作成(「景観づくり手引き集」の作成、「景観ルールのたたき台」づくり)
- ②唐津街道姪浜町並みゼミの開催 (景観づくり計画の地域への発表等により、今後の景観まちづくりに向けての意識の共有を図る)
- ③かわら版による活動の報告や景観づくり計画の地域への広報

こうして策定された計画では、景観づくりの エリアや方向性についてステップ1を見直すと ともに、姪浜固有の地域資源を活かした景観づ くりを浸透させ展開していくため、「景観づくり と並行して進めるべき実践活動」や「景観づく り推進組織」についても提案している。

「地域のことは、地域で考え実践する」これがまちづくりの基本である。黙っていて誰かがまちづくりをやってくれるわけではない。景観づくり委員会でできることは限られており、地域の皆さま方の積極的な参加が必要である。



景観づくり計画ステップ2

(17) 姪浜景観まちづくり宣言

これは、景観づくり計画が示す姪浜の景観づくりの方向性をわかりやすく示し、地域の皆さま方と共有するため、「姪浜景観まちづくり宣言」を行ったものである(3月14日)。

この宣言を踏まえ平成 26 年度からは、地域の関係団体や住民の皆さま方のさらなる協力と幅広い参加をいただきながら、より詳細な計画を策定するとともに、具体的な景観づくりを実践していくこととした。

「姪浜景観まちづくり宣言~姪浜の宝を福岡市民の宝に!~」

姪浜のまちを眺めながらじっくりと歩いてみると、町並みのそこここにたくさんの「よかとこ」を発見することができます。歴史ある数々の寺社、古い町家、唐津街道、路地、祠、お堂、寺社や民家の花・緑、港の風景など数え上げると切りがありません。このように姪浜は「寺町」「宿場町」「港町(漁師町、廻船町)」の面影を今に伝える全国的にも珍しいまちです。

私たちは、地元の人たちにとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人たちにとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、このような多彩な「よかとこ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の皆さま方とともに具体的に実践していくため、ここに「姪浜景観まちづくり宣言」を行います。

『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』の実現に向けて、地域の総力を結集して取り組んでいきましょう。

○姪浜ならではの多彩な歴史や文化を活かした景観づくりを進めよう

興徳寺や住吉神社に代表される寺社、江戸時代から昭和時代にかけての伝統的な町家、唐津街道の宿場の名残を感じさせる町並みや道の形、海辺のまち独特の路地のネットワーク、祠、お堂、寺社の豊かな緑、港の風景などは、姪浜固有の宝(魅力資源)です。これらを最大限に活用した景観づくりを地域協働で進めていきましょう。

○地域の貴重な財産である町家を現代的視点で再評価し、積極的に活用しよう

町家は、地域の長い歴史の中で生み出された建築様式です。「寒い」「暗い」「暮らしにくい」ということをよく聞きますが、もともとプライバシーや採光、通風の確保など生活の知恵が詰まった家です。最近では、快適な暮らし方が提案された事例やレストランなどとして再生された事例も多く見ることができます。こうした町家の特性を現代的視点で再評価し、住居や店舗として積極的に活用していきましょう。私たちも町家を保全・再生・活用するための体制づくりを進めていきます。

○新しい建物や駐車場も町並みの向上に貢献するような景観づくりの工夫をしよう

様々な事情で古い町家が解体され、その後はワンルーム形式のマンションやアパートが建ったり、駐車場になったりしています。新しい建物や駐車場も町並みの連続性や色彩、緑化などに配慮し、地域の町並み形成に積極的に参加していきましょう。

○景観づくりを住みやすさ・暮らしやすさや商店街の賑わい創出につなげよう

「何のための景観づくりか?」「だれのための景観づくりか?」ということをよく耳にします。 姪浜 の景観づくりは外観を整えたり、観光化することが主な目的ではありません。 私たちは、姪浜ならではの魅力資源を活かした景観づくりの取り組みにより、「地域の皆さま方が歴史ある姪浜に暮らし、ここで商売をすることに誇りと愛着を持ち続けてほしい」と考えています。そして、街道や路地を活かした地域コミュニティと会話が生まれる対面型の商店街を再生し、高齢者や子どもたちの姿が溢れるまちにしていきましょう。

○子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりをしよう

姪浜には多くの宝があります。しかし、まちの宝や伝統はそのまま放っておくと錆びたり朽ちたりして、最後には消滅してしまいます。まちの宝や伝統に磨きをかけて次の世代にバトンタッチしていきましょう。また、子どもたちといっしょに姪浜を歩いてまちの姿をともに観察し、姪浜の宝や物語を伝えるなど、子どもたちが姪浜に関心や誇りを持つための入口をつくってあげましょう。

平成26年3月14日

唐津街道姪浜まちづくり協議会、唐津街道姪浜景観づくり委員会

平成 25 年度の振り返り

平成 25 年度は、この他に「みそ蔵コンサート (5月 11 日)」、各種関連事業、視察対応などの他、かわら版を3回発行するなど多忙を極めた1年間であった。また、筆者が住むマンション (906 戸)の広報誌でも異例のページ (5ページ。通常は $1 \sim 2$ ページ)を割いて姪浜や協議会活動の紹介をさせていただいた。筆者の活動をしっかり見てくれていた方が同じマンションにいたことを大変嬉しく思う。

平成 25 年度は職場が異動になり、慣れない業務に取り組む中でも充実した1年を過ごすことができた。出張で秋田県(仙北市角館、横手市増田)、協議会の活動で新潟県(長岡市、村上市)、岡山県(倉敷市)に行く機会にも恵まれ、いろいろな地域の取り組みを学ぶことができた。

また、長男が関東の大学に入学し、建築や都市、環境の勉強をするようになったことにより、筆者自身も初心に帰って建築や都市を再度勉強するようになった。筆者らが学生時代に学んだことより遥かに進化していることに驚かされたが、筆者自身の今後の人生を考える絶好の機会と捉えるようになった。今こうして書いている活動記録も、筆者のこれまでの人生を振り返るものでもある。こうした機会を与えてくれた長男に感謝したい。



筆者が住むマンションの広報誌にも掲載

コラム8 気持ちの100倍返し

地域づくりはまさしく喜怒哀楽の世界です。喜びや楽しみはみんなで共有できますが、怒りや哀しみはあまり外に出さずに胸の内にしまっておくようにしています。このところ、様々な事情で古い町家が取り壊されたり、伝統あるお店が閉店されるなど、辛いと感じることも多いですが、その一方で姪浜の魅力を相撲甚句や史跡めぐりの歌にしていただくなど、地域の皆さま方の温かい気持ちをいただいて会員一同大変感激しております。

皆さま方からいただいた気持ちは、まずは 10 倍の気持ちでお返しし、それが地域の皆さま方に戻っていく時にはその 10 倍、つまり当初いただいた気持ちの 100 倍にして地域に返していきたいと思っています。具体的には「姪浜の魅力」として地域内外に広く PR していきます。昨年「倍返し」という言葉が流行しましたが、姪浜流の倍返しは「気持ちの 100 倍返し」です。

今後も、嬉しいことも辛いこともすべてプラスのエルネギーに変えて、姪浜ならではのまちづくりの実現に向けて辛抱強く取り組んでいきたいと考えています。どうか皆さま方のご支援、ご協力、そして何よりも地域づくりへの積極的なご参加をお願いいたします。「どうかご支援ョーホホイーアー願いますヨー」。(平成 26 年 3 月 31 日発行の「かわら版第 7 号」より)

17 2nd ステージの振り返り

(1) 主な活動メンバー

1st ステージ (H19~21 年度)の町並みイベントを中心とした事業に加え、「元気!姪浜計画 (まちづくり計画)」や「景観づくり計画」の策定、「姪浜ブランド」や「姪浜町家」の認定、九州大学や地域づくりに取り組む団体との連携など、活動は年々充実していった。会員は協力会員を含め35人程度いたが、実際に活動するメンバーは限られていた。活動が充実すれば充実するほど、それは筆者の負担増につながっていった。筆者が頼りにしたのは、肥塚副会長であり、太田景観づくり委員会委員長であった。この二人がいたからこそ、2nd ステージの新たな事業を進めることができた。



西区どんたく参加(平成 23 年5月)



津屋崎視察(平成25年11月)

(2)活動資金

平成 22 年 2 月からマイヅル味噌内に案内所を構えたこともあり、家賃や光熱費が年間 25 万円ほどかかることになった。会員から会費(5 千円/人)を徴収することになったが、家賃を賄えるほどではなかった。また、平成 $19\sim21$ 年度の3 年間の「西区やる気応援事業」の助成が終了し、新たな活動資金を調達する必要があった。

参加料を徴収できるイベントについては、収支が黒字になることはなかったが、赤字にならない状況までもっていくことができた。しかし、「元気!姪浜計画」や「景観づくり計画」の策定、また、それに伴うワークショップや講演会の開催などの経費については新たな助成金を探す必要があった。幸いなことに平成 21 年度末に福岡市より認定を受けた「景観づくり地域団体」への助成制度を平成 22 年度と 23 年度に活用することができた。

また、全国区の助成金にも果敢にチャレンジし、2nd ステージの4年間で4つの補助事業の採択を受けることができた。さらに、福岡県が平成25年度に創設した「ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金」にも採択された。こうした助成金を活用することで、まちづくり活動をさらに軌道に乗せることができた。

筆者は協議会活動全体を見渡し、どの時期にどのような活動を進めていくのかを的確に把握し、それに応じた適切な助成金獲得を念頭に入れていた。助成金を何に使うのではなく、数ある助成金の中から、協議会の活動状況に応じた助成金を選択し、チャレンジしていくことが大切であり、筆者はそれを常に意識していた。

【2ndステージの助成金】

- ・景観づくり地域団体活動助成金(福岡市) H22 年度、23 年度
- ・住まい・まちづくり担い手事業助成金(住まい・まちづくり担い手支援機構) H22 年度
- ・URCA まちづくり企画支援事業助成金(再開発コーディネーター協会) H24 年度
- ・まちづくり人応援助成金(まちづくり市民財団)H24年度
- ・街なか再生助成金(区画整理促進機構) H25 年度
- ・ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金(福岡県) H25 年度

【2ndステージの事業費の変遷】

単位: 千円

	助成金	自己資金	総事業費
平成 22 年度	2, 533	1, 326	3, 859
平成 23 年度	500	1, 127	1, 627
平成 24 年度	6 2 0	1, 335	1, 955
平成 25 年度	800	2, 257	3, 057

(3)表彰、認定

2nd ステージの表彰としては、平成 25 年度の NPO 日本都市計画家協会の「日本まちづくり大賞」、福岡県の「ふくおか共助社会づくり表彰」、(公財) あしたの日本を創る協会の「あしたのまち・くらしづくり活動賞」である。また、平成 22 年度と 23 年度に福岡県の「ふくおか地域づくり活動賞」を連続受賞した(23 年度は大賞に続く奨励賞)。この賞は平成 21 年度にも受賞しており、3 年連続の受賞となった。

この他、平成 24 年度に「まちづくり人応援助成金」を受けたまちづくり市民財団から「まちづくり人」として認定された。







NPO 日本都市計画家協会「日本まちづくり大賞」受賞

「まちづくり人」として認定

(4)総括

このように2nd ステージの4年間も、様々な事業を展開してきた。2nd ステージがスタートした時の課題は、「地域のまちづくりの方向性が不明確」「まちづくりの効果を具体的に目に見え

る形で示す」ことであった。こうした状況の中で、筆者らは「姪浜のまちづくりの方向性を示す計画を作ろう」「地域でできる取り組みを実践しよう」という目標を立て、1st ステージで実践してきた多彩な町並みイベントの継続・充実に加え、計画策定業務(まちづくり計画、景観づくり計画)や具体的な実践事業(姪浜ブランド認定、姪浜町家認定等)に取り組んできた。

協議会設立から4~7年目という時期であり、ややもすると中だるみしやすい時期であったが、協議会の熟度や地域の状況に応じた新たな目標を立て、ほぼ計画通りに活動を実践してきた。協議会全体としても、地域としても、また筆者個人としても、いろいろと成果の多いセカンドステージであったと思う。

H26.1.24景観づくり委員会及び定例会 平成25年度事業の進捗状況の確認及び今後の予定について

		景観づくり委員会を中心とした地域協	3 働事業		
月	委員会◆ 定例会▲	歴史的な環境を活かした 地域協働の町並み形成と地域づくり推進事業 <u>※助成事業(一部助成対象外)</u>		協議会主催事業	関連事業
4月	▲4/19	第1回まち歩きワークショップ(4/27) ◇まち歩きマップ改訂(4/27)	各種助成事業に応募 		
5月	▲5/24 ◆5/25		審査	◆みそ蔵コンサート(5/11)	
6月	♦ ▲6/21		→ 2つの助成事業に採択	◆歴史散策マップ改訂(データ更新。6/21)	
7月	◆▲ 7/26		事業計画検討		
8月	♦ ▲ 8/23		↓ 関係者協議		◆角館、横手市増田視察(8/28~30)
9月	▲9/14	◆第2回まち歩きワークショップ(9/14)◆まちづくり瓦版第6号 (景観づくり委員会の事業計画の発表等。9	↓ 順次、事業計画決定 /30発行)		◆全国町並みゼミ倉敷大会(9/20~22) ◆西区まるごと博物館(9/29)
10月	▲10/11	◆まちづくり瓦版号外 (日本都市計画家協会賞等受賞記念。10/31発行)		◆灯明コンサートIN住吉神社(10/19)	◆日本都市計画家協会賞受賞(10/5~ 6)
11月	11/1	◇みで載符別公開(11/2~9) ◆まち歩きガイドツアー(11/9)	唐津街道經浜ウィーク 『とっておきの姪浜!』として実施(11/2~9)。		◆あしたのまち・くらしづくり活動賞受賞 (11/30)
12月	▲12/20 兼忘年会		の塀の落書き消しの検討	◆歴史散策マップ改訂(データ更新。12/25)	◆九州大学「都市・建築ワークショップ」 (12/6)
1月	1/24	まとめる。・お寺の	の検討 との協議	◆「姪浜町家」認定事業(6軒リストアップ →プレート制作)	◆姪浜フェスティバル(1/25) (唐津街道舗装完成配念イベント)
2月	◆▲ 2/21予定	◆子どもまちなみ探検隊(2/8。姪浜ビィーキと共催)		◆「姪浜ブランド」駅定事業(2店リスト アップ→打診→プレート制作)	◆唐津街道サミット(2/15。福津市畦町)
3月	◆▲ 3/14予定	◆光福寺の堺の落書き消し(3/1) ◆まちなみフォーラムin姪浜(3/29) ◆まちなり取販第7号 (景観づくり計画の発表等。3/31発行) ◆◆景観づくり計画策定(3/31)		◆受賞祝賀会(3/8、御團) ◆経浜町家及びブランド認定プレート贈呈式 (3/29、まちなみフォーラム時)	◆第1回まちなみネットワーク福岡 (3/28、まちなみフォーラム福岡IN唐津 街道姪浜として開催)
備考		◆福岡県共助社会づくり基金助成金◆街なか再生助成金		◆各種イベントに合わせた町並みパネル展 ◆各種視察・騰濱対応	◆ふくおか地域づくりネットワーク協議会 ◆福岡県美しいまちづくり協議会 ◆まちなみネットワーク福岡

事業の進行管理(平成 26 年1月の景観づくり委員会及び定例会の資料より)